地質学雑誌　第111巻　第10号（通巻1321号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成17年10月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.8 No.10 October 2005

■ 地質調査総合センター* 発行地質図類の販売

●5万分の1地質図幅・20万分の1地質図幅・50万分の1地質図幅など
●100万分の1地質図・200万分の1地質編集図など
●数値地質図（CD-ROM）・活構造図・活断層ストリップマップ・火山地質図・地球化学図・水理地質図・地熱資源図・鉱物資源図・炭田図・油田ガス田図・特殊地質図・海洋地質図・重力図・空中磁気図・東アジア災害図など

在庫切れ地質図の注文プリント取り次ぎ・古書の販売もいたします

■ 地質図・地球科学文献コピー代行
■ 地球科学論文・文献の翻訳・添削
■ 地学データのデジタル化・計算機入力
■ 地球科学文献調査・検索
■ その他 地学情報に関連する業務

迅速・確実!!
ご相談ください

＊ 独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター（旧地質調査所）

地学情報サービス 株式会社 GSIS

代表取締役社長 垣 見 俊 弘

〒305-0045 つくば市梅園2丁目32-6
Fax. 029-856-0568
Tel. 029-856-0561
E-mail:gsis@kb3.so-net.ne.jp
Geoscience Information Services Co.,Ltd. Home page:http://www008.upp.so-net.ne.jp/gsis/gsis-J.htm

大地と人の歴史をみつめて　環境と暮らしを考えています。

地質・土壌調査
植栽基盤調査
自然環境調査
埋蔵文化財調査

年代測定、火山灰分析
花粉・微化石・種実・貝等の化石分析
岩石・鉱物の鑑定、標本・分析用試料の作製
石材・骨材・モルタルの顕微鏡鑑定と分析
土壌・資材・肥料の分析、植物栽培試験
考古遺物の分析、石器・土器・木材・骨の鑑定と分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

〒103-0033 東京都中央区日本橋本町1-10-5 日産江戸橋ビル
TEL 03-3241-4566（代表） FAX 03-3241-4597
http://www.palyno.co.jp/

研究所 〒375-0011 群馬県藤岡市岡之郷戸崎559-3
TEL 0274-42-8129 FAX0274-42-7955

大阪支店 〒564-0044 大阪府吹田市南金田2-3-26 ファー・イースト21 503
TEL 06-6193-9885 FAX 06-6193-9886

沖縄支店 〒901-2133 沖縄県浦添市城間3-13-13 我如古ビル3F
TEL 098-875-8660 FAX 098-875-8660

日本地質学会*News*

Vol.8 No.10　October 2005

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル　６Ｆ
編集委員長　大友幸子
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

日本地質学会各賞の表彰に関して運営細則・各賞選考規約の改正―賞の新設，賞選考のプロセス変更に関してのお知らせ―（日本地質学会理事会）……2

2006年度日本地質学会各賞候補者募集について ……4

案内 ……5
シンポジウム「地球をのぞくファイバースコープ－陸上科学掘削と社会」/ウインター・サイエンスキャンプ/ZMPC2006（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals）/第４回日本女性科学者の会学術大会/国際鉱物学連合第19回総会学術講演会（IMA2006-Kobe）のお知らせ/産業技術総合研究所地質調査総合センター第３回シンポジウム「付加体と土木地質　―地質図の有効性と限界―」

各賞助成 ……6
平成18年度「とやま賞」候補者推薦募集

公募 ……7
広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻教員公募/横浜国立大学教育人間科学部教員採用候補者（理科教育講座）募集/鹿児島大学理学部地球環境科学科教員公募

紹介 ……8
富山市科学文化センター収蔵資料目録第18号　飛騨帯の地質と岩石―加納標本―（赤羽久忠）/大分地質学会誌第11号（高柳洋吉）

新版地質図・報告書類 ……9
地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）「生野地域の地質」吉川敏之ほか（吉村辰朗）

国立情報学研究所（NII）のサービスが新しくなりました ……10

CALENDAR ……11

表紙紹介 ……11
チリ・El Laco 磁鉄鉱溶岩（写真・文　萬年一剛）

TOPIC ……12
セクシュアル・ハラスメントおよびアカデミック・ハラスメントのビデオを紹介します（田崎和江）

2006年度会費口座引き落としのお知らせ

振替予定日：**12月26日（月）**

新たに会費口座引き落としをご希望の方は，巻末の振替依頼書を，**11月14日（月）**までにお送り下さい．

また，すでに引落し手続きが完了している方で院生割引会費の適用を希望される方は，**11月24日（木）**までに，院生割引申請書をご提出下さい．

期日までにご提出いただけない場合は，正会員の会費で引き落しがかかります．何卒ご了解下さい．

日本地質学会2006年度 会長・副会長・監事および代議員の選挙について

立候補受付期間：10月１日～31日（必着）

実施要領は先月号ニュース誌でお知らせしたとおりです．立候補の状況等は，学会HPで随時お知らせしています．HP選挙情報をご覧になるには，IDとパスワードが必要です．今年４月以降にご入会の方は，ID：geosociety・パスワード：gsjをご利用下さい．

日本地質学会選挙管理委員会

ジオロジストのための法律メモ ……13
著作権譲渡等同意書の解説（12）

院生コーナー ……14
7th International Eclogite Conference（第７回国際エクロジャイト会議）参加報告（松本啓作）

院生（研究生）の方へ「院生割引申請」について 2006年度（2006.4～2007.3）院生割引会費の受付開始 ……16

学会記事 ……17
2005年度第12回理事会議事録
2005年度第13回理事会議事録
2005年度第14回理事会議事録
2005年度第５回定例評議員会議事録

出版物在庫案内 ……25

取り扱い地質図一覧 ……26

巻末　会費自動振替依頼書

広告取扱：株式会社廣業社
〒104－0061 東京都中央区銀座8－2－9　電話 03－3571－0997　　印刷・製本：日本印刷株式会社

日本地質学会各賞の表彰に関して運営細則・各賞選考規約の改正
―賞の新設，賞選考のプロセス変更に関してのお知らせ―

2005 年 10 月 12 日
日本地質学会理事会

1．賞の新設について

現在，日本地質学会各賞には若手を対象とした研究奨励賞がありますが，いわば若手会員の論文賞という位置づけで，選考対象の論文の掲載誌が学会出版物に限定されています．一方，日本地質学会会員の若手にも，国際的評価の高い雑誌に掲載・活躍している人材も増えてきておりますが，現在の表彰規定では，そうした若手会員に対応した賞は存在しておりません．そこで，日本地質学会として，そうした若手会員の業績自体を顕彰するために，日本地質学会若手学会賞（仮称）を創設することとしました．現在，名称については検討段階で12月の評議員会において確定する予定でおりますが，顕彰自体は2006年度から開始することとし，今回の各賞選考において候補者の募集をすることとします．

賞の名称　**日本地質学会若手学会賞**（仮称）
賞の内容
　受賞要件：地質学に関して優れた業績を上げた37歳以下の日本地質学会会員
　応募方法：会員による推薦（自薦でもよい）
　応募書類：簡単な履歴書，業績リスト（含）学会講演，推薦書など，各賞選考に関する規約第11項参照．
　賞：賞状，賞金

2．日本地質学会賞・日本地質学会国際賞および若手学会賞（仮称）の選考プロセスについて

これまでは各賞委員会において日本地質学会賞・日本地質学会国際賞の受賞候補者の選出を行っていましたが，今後は若手学会賞（仮称）も含めて，各賞選考委員会の下に諮問機関として，これらの賞の「選考検討委員会」を設置して選考を行うこととしました．

選考検討委員会の構成：前・現地質学会長，過去3年間の地質学会賞受賞者，前・現地質学雑誌編集委員長，前・現Island Arc編集委員長および理事会が推薦する若干名

3．論文賞，研究奨励賞，小藤賞の対象論文となる期間の変更

総会開催期日は今後，日本地球惑星科学連合大会（旧合同大会）開催に合わせて開催することになりました．評議員会で決定された各賞授与について総会での承認を受けるために，選考のスケジュール全体をこれまでより３ヶ月早めることといたします．具体的には，上記３賞の対象論文の掲載期間をこれまでの12月締めから９月締めに変更することとし，各賞の対象期間に応じ，段階的に是正してゆくことといたします．

論文賞
　応募年の９月までの過去３年間に.... に掲載された論文
研究奨励賞
　応募年の９月までの過去２年間に.... に掲載された論文
小藤賞
　前年10月から応募年の９月までの１年間

4．募集・応募期間の変更

各賞の募集・応募期間は，上記３項の理由により，これまでの１月から３月を，今後は11月から翌年の１月末までといたします．募集に関する記事はNews誌10月号ならびにHPに掲載いたします．

5．運営細則ならびに各賞選考規約の変更

上記１項から４項に関連する条項を中心に，運営細則ならびに各賞選考に関する規約の一部変更を行います．変更,修正は下記を参照してください．

運営細則
（抜粋．変更，追加・変更は太文字，アンダーライン）

第11章　表　彰
（表彰）
第39条　本会は地質学に関する優秀な研究業績を納めた会員もしくは地質学の発展・普及に貢献のあった会員等に対し，表彰を行う．
　2　表彰の内訳は次のとおりである．
　(1) 日本地質学会賞：地質学に関する優秀な業績をおさめた会員
　(2) 日本地質学会国際賞：とくに日本の地質学に関して顕著な功績があった非会員
　(3) 日本地質学会論文賞：「地質学雑誌」あるいは「Island Arc」に優れた論文を発表した会員
　(4) 日本地質学会小藤賞（短報賞）：「地質学雑誌」に重要な発見または独創的な発想を含む短報を発表した会員
　(5) 日本地質学会研究奨励賞：「地質学雑誌」あるいは「The Island Arc」に優れた論文を発表した35才**未満**の会員
　～　以下（６），(7)，(8)，(9) は略　～
　(10) 日本地質学会若手学会賞（仮称）：地質学に関して優れた業績を上げた37歳以下の会員
　3　表彰は，別途定める規約に従い，各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行って，評議員会が候補者を決定し，理事会及び総会の承認を経て行う．

附則（追加）
1．第39条２項の変更後の規則は，2005年９月17日から施行する．

日本地質学会各賞選考に関する規約
（全文掲載．追加・変更は太字　アンダーライン）
（1984.3.27施行　1986.6.21一部改正　1988.4.1一部改正　1994.3.27一部改正　1997.4.3一部改正　2001.9.20一部改正　2001.12.8一部改正　2003.12.13一部改正　**2005.9.17一部改正**）

1．日本地質学会運営細則第11条（表彰）の各賞選考に関する運営は，この規約によるものとする．
2．各賞選考委員会の委員は，理事会により推薦された前・現編集委員長および副委員長**４名，Island Arc前・現編集委員長**および評議員により互選された委員10名で構成される．評議員より互選される委員の任期は２年とし，１年ごとに半数改選とする．委員長は委員間の互選とする．ただし，選考委員会委員が受賞**候補**対象**者**となった場合は，該当する賞の選考には関与しないこととする．なお，**各賞選考委員会は，日**

本地質学会賞，日本地質学会国際賞，日本地質学会若手学会賞に関しては，選考検討委員会を設置して，諮問することができる．

3．日本地質学会賞の授与は原則として毎年とし，受賞候補者の応募に関する細目は次のとおりとする．

応募資格：（イ）正会員もしくは名誉会員

（ロ）前記のものを代表とするグループ

応募方法：下記の書類をそろえて所定の期日（授与年の１月末日）までに選考委員会あてに提出する．

（イ）応募書（所定の用紙による）１部．

（ロ）推薦書（自薦・他薦とも可，ただし，他薦の場合には正会員または名誉会員によるものとする．その内容は応募者または応募グループの業績を評価できる程度に詳細なもの）１部

応募に関する公示：応募締め切り期日のおそくも３月前発行の学会誌に掲示する．

4．日本地質学会論文賞の受賞対象は次のとおりとする．

（イ）**応募開始年９月**までの過去３年間に地質学雑誌に発表された論文

（ロ）**応募開始年３号（９月）**までの過去３年間にThe Island Arcに発表された筆頭者が本会会員による論文．

5．日本地質学会研究奨励賞の受賞対象資格者は次のとおりとする．

応募開始年９月までの**過去**２年間に地質学雑誌およびThe Island Arcに発表された論文で，**応募開始年**９月末日で**満**35才未満の正会員および**準**会員．筆頭著者であれば共著でもよい．

6．日本地質学会小藤賞の受賞対象は次のとおりとする．

応募開始年９月までの**過去**１年間に地質学雑誌に発表された短報．

7．日本地質学会功労賞の受賞候補者の応募に関する細目は次のとおりとする．

応募資格：本会会員もしくは非会員，またはこれらを代表するグループ

応募方法：評議員，支部，または理事会による所定の様式による推薦

8．日本地質学会優秀講演賞の受賞候補者の応募および選考に関する細目は次のとおりとする．

応募資格：別途本委員会が定める講演会において発表した講演（ポスターを含む）の講演者またはこれらを代表するグループ

選考委員の追加：各賞選考委員会は本賞に限った優秀講演賞選考委員を任命し，その意見を選考の参考にすることができる．

9．日本地質学会表彰の応募に関する細目は次のとおりとする．

応募資格：非会員の個人，団体または機関

応募方法：評議員，支部，または理事会による所定の様式による推薦

10．日本地質学会国際賞の応募に関する細目は次のとおりとする．

応募資格：非会員

応募方法：会員，支部，または理事会による**推薦**，所定の様式による．

11．日本地質学会若手学会賞（仮称）の応募に関する細目は次のとおりとする．

応募資格：応募開始年の９月末日で37歳以下の会員．

応募方法：会員による推薦（自薦も可），所定の様式による．

推薦　注）

地質学会賞・研究奨励賞**・若手学会賞（仮称）**の受賞候補者は，過去においてそれぞれの賞を受けていないこと．

付則（修正，追加）

本規約の変更は評議員会の議決による

2005年９月17日および10月12日に一部改正後の本規約は，同日から施行する．

2006年度日本地質学会各賞候補者募集について

日本地質学会各賞選考委員会
委員長　保柳康一
松岡　篤，小嶋　智，榊原正幸，佐々木和彦，新井田清信，山路　敦
巽　好幸，横山俊治，田近　淳，狩野謙一・宮下純夫・久田健一郎
石渡　明・Simon Wallis

日本地質学会は毎年その事業のひとつとして，研究の援助・奨励および研究業績の表彰を行っています（会則第３条）．具体的には，運営細則第11条および各賞選考に関する規約に，表彰の種別や選考の手続きを定めています．これらにしたがい，来年度の下記の賞の候補者を募集いたします．ご応募いただいた候補者を，各賞選考委員会（委員は評議員の互選により選出されます）が選考し，評議員会で受賞者を決定します．

日本地質学会功労賞・日本地質学会表彰以外は，会員（正会員・名誉会員）であればどなたでも推薦できます．論文賞・研究奨励賞・小藤賞の対象論文リストについては，地質学会のホームページ（http://www.geosociety.jp/）をご覧いただくか，または，地質学会事務局までお問い合わせ下さい（TEL：03-5823-1150，e-mail：main@geosociety.jp）．

応募の締め切りは，2006年１月31日（火）必着です．下記の応募要項をご参照の上，各賞選考委員会（学会事務局）までふるってご応募下さいますようお願いいたします．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6Ｆ　日本地質学会各賞選考委員会

１．日本地質学会賞

受賞対象：地質学に関する優秀な業績をおさめた本会正会員もしくは名誉会員，またはこれらの会員を代表とするグループ．

応募方法：下記の書類をそろえて2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．

（イ）応募書（所定の用紙による）１部．

（ロ）推薦書（自薦・他薦とも可．ただし，他薦の場合には正会員または名誉会員によるものとする．その内容は応募者または応募グループの業績を評価できる程度に詳細なもの）１部．正会員・名誉会員であればどなたでも自薦・他薦ができます．書式・所定の用紙については事務局にご請求下さい．

２．日本地質学会論文賞

受賞対象：2003年１月から2005年９月まで*の過去２年９ヶ月間に地質学雑誌およびThe Island Arcに発表された筆頭者が本会会員による優れた論文．

応募方法：推薦理由書（400字程度）を2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

３．日本地質学会研究奨励賞

受賞対象：2004年１月から2005年９月まで*の過去１年９ヶ月間に地質学雑誌およびThe Island Arcに優れた論文を発表した，2005年９月末日で満35才未満の正会員あるいは準会員．筆頭著者であれば共著でもよい．

応募方法：推薦理由書（400字程度）を2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

４．日本地質学会小藤賞

受賞対象：2005年１月から９月まで*の９ヶ月間に地質学雑誌に発表された，重要な発見または独創的な発想を含む短報．

応募方法：推薦理由書（400字程度）を2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．正会員・名誉会員であればどなたでも推薦ができます．

５．日本地質学会功労賞

受賞対象：長年にわたり地質学の発展に貢献のあった本会会員もしくは非会員．またはこれらを代表するグループ．

応募方法：評議員，支部，または理事会が所定の様式により，2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．所定の様式については事務局にお問い合わせ下さい．

６．日本地質学会表彰

受賞対象：地質学の教育活動，普及・出版活動，新発見および露頭保全，あるいは新しい機器やシステム等の開発等を通して地質学界に貢献のあった非会員の個人，団体および法人．

応募方法：評議員，支部，または理事会が所定の様式により，2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．所定の様式については事務局にお問い合わせ下さい．

７．日本地質学会国際賞

受賞対象：とくに日本の地質学に関して顕著な功績があった非会員．

応募方法：会員，支部，または理事会が所定の様式により，2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．所定の様式については事務局にお問い合わせ下さい．

８．日本地質学会若手学会賞（仮称）

受賞対象：地質学に関して優れた業績を上げた2005年９月末日で37歳以下の会員

応募方法：会員，支部，または理事会が所定の様式により，2006年１月31日までに選考委員会あてに提出する．所定の様式については事務局にお問い合わせ下さい．

＊地質学会会則の改定に伴い受賞候補者の承認をおこなう総会が年度当初となったため，日本地質学会論文賞，日本地質学会研究奨励賞，日本地質学会小藤賞の受賞対象論文発表期間を受賞の前年９月までとすることが，理事会，評議員会で決定されました．

注）地質学会賞・研究奨励賞の受賞候補者は，過去においてそれぞれの賞を受けていないことが要件となります．

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します．

シンポジウム「地球をのぞくファイバースコープ―陸上科学掘削と社会」

日時：**平成17年12月22日（木）**午後２時～
場所：東京大学“小柴ホール”
（東京大学理学部１号館中央棟２階）
千代田線根津，南北線東大前下車
主催：日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）

日本地球掘削科学コンソーシアム陸上掘削部会では，陸上掘削サイエンス・プラン「地球をのぞくファイバースコープ」を編纂いたしました．これは，陸上掘削によって解明されるべき地球科学的諸課題や掘削における技術的な問題点などを各分野の専門家に分担執筆していただいたもので，今後の陸上科学掘削プロジェクトの指針となるべき基礎資料です．このたび，この「地球をのぞくファイバースコープ」に関連したシンポジウムを企画いたしました．本シンポジウムでは，各分野執筆者および掘削科学に関連した招待講演者による 講演を予定しております．

問い合わせ先：
〒305-0006　つくば市天王台3-1
防災科学技術研究所　固体地球研究部門
小村健太朗
電話：029-863-7624,
電子メール：omura@bosai.go.jp

ウインター・サイエンスキャンプ

主催：文部科学省
開催日：**平成17年12月23日～平成18年１月９日**のうち２泊３日又は３泊４日
会場：大学，公的研究機関，民間企業（15会場）
大学
（国立大学法人）北海道大学大学院理学研究科／北見工業大学工学部／東北大学大学院工学研究科創造工学センター／山形大学工学部機能高分子工学科／筑波大学工学システム学類／鳥取大学地域共同研究センター・アドミッションセンター／愛媛大学沿岸環境科学研究センター／高知大学海洋コア総合研究センター・遺伝子実験施設（公立大学法人）大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科（私立大学）足利工業大学総合研究センター／神奈川工科大学工学部／中部大学工学部先進計測研究センター・工学基礎教室／同志社大学工学部
公的研究機関　独立行政法人産業技術総合研究所 セルエンジニアリング研究部門
民間企業　株式会社東芝研究開発センター

内容：様々な最先端の研究成果や研究施設・実験装置等を有する大学（13機関），公的研究機関（１機関），民間企業（１機関）が12月・１月の冬休みの３～４日間，高等学校・中等教育学校後期課程・高等専門学校（１～３年）等の生徒を受け入れ，ライフサイエンス，情報通信，ナノテクノロジー・材料，電気・電子，環境・エネルギー，地球科学，ロボット工学等の分野において，第一線で活躍する研究者・技術者による実験・実習を主体とした科学技術体験合宿プログラムを実施する．
対象：高等学校，中等教育学校後期課程又は高等専門学校（１～３年）等に在籍する生徒
定員：受け入れ会場ごとに８～30人（合計238人）
参加費：8,000円（自宅～会場間の交通費は参加者負担）
応募・選考：募集要項の請求は事務局まで（公式WEBサイトからもダウンロード可）．
指定の「参加申込書」を事務局に送付．会場ごとに選考を行い参加者を決定．
応募締切：**2005年11月16日（水）必着**
事務局（実施運営機関）：
財団法人日本科学技術振興財団
協力：北海道大学／北見工業大学／東北大学／山形大学／筑波大学／足利工業大学／神奈川工科大学／中部大学／同志社大学／大阪府立大学／鳥取大学／愛媛大学／高知大学／独立行政法人産業技術総合研究所／株式会社東芝
問い合わせ先：サイエンスキャンプ事務局
財団法人日本科学技術振興財団　振興部内
〒102-0091　東京都千代田区北の丸公園２番１号
電話　03-3212-2454　FAX　03-3212-0014
E-mail：camp@jsf.or.jp
ウインター・サイエンスキャンプ会場及びプログラム，定員，開催期間については，公式WEBサイト：http://ppd.jsf.or.jp/camp/

ZMPC2006（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals）

ゼオライト学会では，ゼオライト・ミクロポーラス結晶に関する標記の国際会議を開催します．研究発表を広く募集します．
主催：ゼオライト学会
会期：**2006年７月30日（日）～８月２日（水）**
会場：米子コンベンションセンター（鳥取県米子市末広町294）
セッション：1. Mineralogy and Crystallography, 2. Synthesis, 3. Post Treatment, 4. Intercalation, 5. Characterization, 6. Ion exchange, 7. Catalysis, 8. Absorption and Diffusion, 9. Membrane and Films, 10. Computational Chemistry, 11. New Porous Materials, 12. Novel Applications, 13. Industrial Applicationsなどゼオライト，ミクロ・メゾポーラス物質，層状化合物に関する研究発表（口頭およびポスター）を広く募集する．

Plenary, Keynote講演予定者：
Avelino Corma（Universidad Politechnica de Valencia），James F. Haw（Univeristy of Southern California），Johannes Lercher（Technische Universität München），Jesús Santamaría（Universidad de Zaragoza），Osamu Terasaki（Stockholm University），Omar Yaghi（University of Michigan），Chung-Yuan Mou（National Taiwan University），Ulrich Müller（BASF），Shilun Qiu（Jilin University），Gopinathan Sankar（The Royal Institution of GB），Michael Tsapatsis（University of Minnesota），Yushan Yan（University of California），Kyung Byung Yoon（Sogang University），Takuzo Aida（The University of Tokyo），Shinji Inagaki（Toyota Central R & D Lab. Inc.），Susumu Kitagawa（Kyoto University），Akira Miyamoto（Tohoku University），Hirokatsu Miyata（Canon Inc.）

発表申込方法：
下記ホームページからオンラインで行う．
2005年11月30日締切．

問い合せ先：
〒680-8552 鳥取市湖山町南4-101
鳥取大学工学部物質工学科
片田直伸（ZMPC2006組織委員会Secretary）
E-mail: zmpc2006@chem.tottori-u.ac.jp,
Tel&Fax 0857-31-5684,
http://www.zmpc.org/

第４回日本女性科学者の会学術大会

日時：**2005年11月20日（日）**９：30－17：00
場所：学士会館本館202号室（千代田区神田錦町3-28　電話03-3292-0586）
実行委員長：大倉多美子
（慶應義塾大学医学部）
参加費：1000円，昼食費：1000円，
懇親会費無料．学生無料．

＜午前：一般演題＞
＜午後：シンポジウムと落語＞
１．シンポジウム「東西医療の融合をめざして」

丸山征郎氏（鹿児島大学大学院医歯学総合研究所・血管代謝病態解析学　教授）
福澤素子氏（表参道福澤クリニック　副院長）
2．医療落語
立川らく朝　師匠（落語家・医師）

参加申込は下記宛先へ郵送・メールでお知らせ下さい．
参加申込締切：11月５日（土）先着100名

申込先：〒277-8562　千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学・新領域・生命棟02
小浪悠紀子　宛
e-mail　yukiko@konamike.net
FAX　03-3488-8447

国際鉱物学連合第19回総会学術講演会（IMA2006-Kobe）のお知らせ

日程：**2006年７月23日（日）～28日（金）**
会場：神戸国際会議場
後援：日本地質学会ほか
「Expansion to Nano, Bio, and Planetary Worlds」という標題の下に，来年2006年の７月に神戸国際会議場で，国際鉱物学連合の第19回総会学術講演会（IMA2006-Kobe）が開催されます．Mineral Physics and High Pressure Mineralogy, Structural Sciences of Minerals, Crystal Growth, Hydrothermal Process and Mineralization, Petrologic Processes, Planetary Materials, Environmental and Applied Mineralogy, Mineral Heritage, New Frontiers in Mineral Sciences, と鉱物に関連する幅広い研究分野に渡って37のセッションを設け，口頭発表とポスター発表を募集します．また，９コースの巡検も用意しました．詳細はホームページ：http://www.congre.co.jp/ima2006/をご覧下さい．セカンドサーキュラーもダウンロードできます．10月より，ホームページを通じて参加登録ができるようになりました．

事前参加登録費：　40,000円（2/28以降は50,000円），学生30,000円
講演要旨原稿の締切：**2006年２月28日**
特に学生の皆さんの活発な参加を促すために学生の登録費を30000円に設定しております．この特別登録費は事前登録時期にしか適用されませんのでご留意下さい．
皆様奮ってご参加下さい．

IMA2006-Kobe　組織委員長　山中高光
広報委員会　宮脇律郎・青木正博・長瀬敏郎

産業技術総合研究所地質調査総合センター第３回シンポジウム「付加体と土木地質―地質図の有効性と限界―」

【趣旨】日本列島の基盤は付加体，変成岩およびこれらに貫入する深成岩からなっています．国土を有効に利用するためにも，付加体をはじめとした基盤を構成する地層・岩体の地質情報は重要です．例えば付加体地域の土木地質では，地滑りなどの斜面災害対策やトンネル及びダムの施工において，複雑な地質を的確に表した地質図が必要になります．
本シンポジウムでは，各種地質図を作る産総研地質調査総合センター，目的に応じたより大縮尺の地質図を作成する地質コンサルタント，土木構造物の施工に関連した地質情報を必要とする建設会社の３者で，付加体地質を中心に，地質図に代表される地質情報の有効性と限界についての認識を深め，より利便性の高い地質情報の取得及び提供のあり方を探ります．
また同時に地質調査総合センターが出版した，最新地質図幅類のポスター発表会も開催します．

開催日：**平成17年11月29日（火）**
会場：秋葉原コンベンションホール
東京都千代田区外神田1-18-13秋葉原ダイビル
（http://www.akibahall.com/）
５階カンファレンスフロア
主催：独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター・産学官連携推進部門
共催：全国地質調査業協会連合会，ジェオフロンテ研究会
後援：日本応用地質学会，日本地質学会
参加費：無料（講演要旨，ポスター要旨集を実費で頒布予定）
予約：必須ではありませんが，できるだけ事前登録をお願いします．近日中に産総研地質調査総合センターホームページ（http://www.gsj.jp/）より登録を行えるようにする予定です．

スケジュール
13：00～13：05　開会の挨拶
地質調査総合センター代表　佃　栄吉
＜地質の調査と地質図作成＞
13：05～13：20　地質分野の研究戦略と陸域地質図プロジェクト
地質情報研究部門　栗本史雄
13：20～13：50　地質図の作成と地質の研究－５万分の１地質図幅「砥用」を例として－　地質情報研究部門　宮崎一博
13：50～14：30　付加体地質と付加体地質図
地質情報研究部門　斎藤　眞
14：30～15：00　前半の質疑応答・休息
＜土木地質調査で経験した付加体地質＞
15：00～15：20　秩父帯での大規模ダム建設における地質上の課題－浦山ダムの事例
（独）水資源機構　阪元恵一郎
15：20～15：40　付加体における斜面変動－浦山ダム貯水池斜面の事例
日本工営（株）　小俣新重郎
＜土木施工で経験した付加体地質＞
15：40～16：00　付加体におけるトンネル施工事例　大成建設（株）　服部弘通
16：00～16：20　付加体でのトンネル工事における地質的問題点
鹿島建設（株）　稲葉武史
16：20～16：55　総合討論
16：55～17：00　閉会の挨拶
地質情報研究部門長　富樫茂子
＜最新地質図幅類のポスターセッション＞
17：00～19：00　平成13-16年度出版地質図幅等発表会コアタイム

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

平成18年度「とやま賞」候補者推薦募集

1　「とやま賞」の趣旨
現在の活動実績がすぐれ，かつ，富山県の将来を担うにふさわしい前途有為な人材の育成に資する．
2　候補者の条件
(1) 富山県出身又は富山県内在住のもの
(2) 学術研究，発明発見（技術開発・応用を含む），芸術文化，スポーツ等の分野において，すぐれた業績を挙げ，かつ，将来の活躍が期待される個人又は団体
※なお，年齢は原則として45歳（平成17年５月９日現在）までとするが，人文・社会科学系についてはこの限りではない．また，大学・研究機関等にあっては助教授クラスまでとし，教授は含まない．
3　提出書類等
(1) 平成18年度「とやま賞」候補者推薦書
(2) 財団が特に指定する提出資料
※提出書類の様式は，WORD形式とPDF形式でダウンロード可能．但し，e-mailでの提出は受付けない．
4　推薦締切　**平成17年12月８日（木）必着**
5　送付先
（財）富山県ひとづくり財団　事務局あて
〒930-0018　富山県富山市千歳町１－５－１
富山県教育記念館２Ｆ
※お問い合わせ等は
電話　076-444-2000
FAX　076-444-2001
e-mail　masuoka@t-hito.or.jp
URL　http://www.t-hito.or.jp

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

広島大学大学院理学研究科地球惑星システム学専攻教員公募

1．職種および人員：教授１名
2．専門分野：中期計画の目標「地球惑星進化素過程の解明と地球環境の将来像の予測」に沿い，地球惑星システムにおける物質の移動と循環，環境変遷，テクトニクスまたはダイナミクスに関連した分野
3．応募資格等：
(1) 上記専門分野で取得した博士の学位を有すること
(2) 本専攻には後記　8. の研究グループがある．これらを基盤に意欲的に研究にあたり，専攻の発展に大きく貢献しうること
(3) 学部および大学院の授業を担当し，学部生・大学院生の教育・研究指導に意欲的であること
4．応募締切：**平成17年11月14日（月）必着**
書留で「公募書類在中」と朱書きのこと
5．着任予定時期：平成18年４月１日以降できるだけ早い時期
6．提出書類：
(1) 履歴書
(2) 研究業績リスト（必ず，①査読有り原著論文，②査読無し原著論文，③総説（review），④その他に区分して下さい）
(3) 主要な論文の別刷（またはコピー）５編以内
(4) これまでの研究概要と着任後の研究計画*（Ａ４用紙１～２枚程度）
(5) 地球惑星科学教育に対する抱負*（Ａ４用紙１～２枚程度）
(6) 研究費外部資金獲得の実績
(7) 応募者についてご意見をいただける方（２名程度）と，その連絡先
7．書類送付先および問合せ先：
〒739-8526　東広島市鏡山１－３－１
広島大学大学院理学研究科
地球惑星システム学専攻長　田島文子
電話：082-424－7463
8．地球惑星システム学専攻の現在の研究グループおよび教員構成
（ホームページhttp://www.geol.sci.hiroshima-u.ac.jpもご参照下さい）
・地球環境進化学：宮本隆實（助教授），狩野彰宏（助教授）
・地球造構学：早坂康隆（助手），安東淳一（助手）
・地球惑星物質学：北川隆司（助教授，平成17年10月教授昇任予定），大川真紀雄（助手）
・資源地球科学：渡辺　洵（教授，平成18年３月末退職予定），星野健一（助手）
・地球惑星内部物理学：田島文子（教授）；須田直樹（助教授），中久喜伴益（助手）
・同位体地球惑星科学：日高　洋（教授），寺田健太郎（助手）
・微量元素地球化学：清水　洋（教授），高橋嘉夫（助教授）

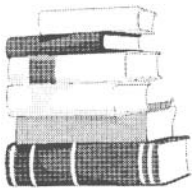
横浜国立大学教育人間科学部教員採用候補者（理科教育講座）募集

1．募集人員　１名
2．採用職名　助教授または講師
3．専門分野　地質学（主として，野外調査に基づく微化石生層序分野）
4．担当科目　専門教育科目［理科概説，地学概説，地学特講，地学実験（コンピュータ活用を含む），中等理科教育法］，教養教育科目，大学院における地学分野の講義及び実験
5．応募資格
(1) 採用時の年齢40歳以下であること
(2) 博士の学位を有するか，採用時までに取得見込みの方
(3) 大学院での指導が可能な方
(4) 小・中学校の教員養成に熱意を持っている方
6．採用予定日　平成18年４月１日
7．提出書類　(1) 履歴書（指定様式）１部　(2) 教育研究業績書（指定様式）１部　(3) 主要な論文の別刷またはコピー　５編以内　(4) これまでの研究概要と着任後の研究計画（2000字程度）　(5) 教育経験と着任後の教育に関する抱負（2000字程度）　(6) 科学研究費補助金等の研究費の獲得状況　(7) 応募者について所見を求め得る方（１～２名）の氏名と連絡先
8．提出締切　**平成17年11月30日（水）必着**
9．書類提出先
〒240-8501　横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2
横浜国立大学教育人間科学部　学部長宛
10．問い合わせ先
横浜国立大学教育人間科学部学校教育課程
理科教育講座　江藤哲人
TEL＆FAX：045-339-3346
e-mail：eto@edhs.ynu.ac.jp
＜備考＞
1．封筒に「理科教育講座教員（地学）応募書類在中」と朱記し，書留郵便で送付すること．提出書類の返送を希望する者は返送用封筒（切手を添付し，返送宛先を明記）を同封してください．
2．提出書類の「履歴書」「教育研究業績書」の様式は，本学部Webサイトからダウンロードしてください．
（http://www.edhs.ynu.ac.jp/recruit/index.html）
3．必要に応じて面接を行うこともあります．
4．地方公共団体（傘下の小・中・高等学校を含む）を退職し，引き続き本学に採用されることとなった場合，本学での退職手当における在職期間算定には，地方公共団体での在職期間を通算しないものとします．（その他公的機関を退職し，引き続き本学に採用されることとなった場合の退職手当に関する取扱いは，国立大学法人横浜国立大学職員退職手当規程に定めるところによる．）

鹿児島大学理学部地球環境科学科教員公募

1．職名・人数　教授　１名
2．公募分野　地質学・古生物学を基礎とした地球科学分野
3．担当科目　専門分野の講義，演習，実験，野外実習
なお，共通教育，大学院博士前期課程（修士）および後期課程（博士）の教育にも携わっていただくことになります．
4．応募資格　博士の学位を有し，大学院博士後期課程の研究指導を担当できる方．なお，着任時において年齢55歳以下の方
5．着任時期　2006年４月１日
6．応募書類
1）履歴書
2）業績リスト（レフリーを通った論文（学会誌）とそれ以外のものを区別して下さい）
3）主要論文10編の別刷り（コピー可）
4）過去10年間の外部資金導入実績リスト
5）これまでの教育・研究実績（Ａ４用紙２枚以内）
6）鹿児島大学赴任後の教育・研究に対する計画・抱負（Ａ４用紙２枚以内）
7）応募者に関する所見を伺える方２名の氏名および連絡先等
応募書類は選考終了後に返却いたします．
7．応募締切　**2005年11月18日（金）必着**
8．応募書類の送付先および問い合わせ先
〒890-0065　鹿児島市郡元１-21-35
鹿児島大学理学部地球環境科学科
河野元治
E-mail: kawano@sci.kagoshima-u.ac.jp
Tel: 099-285-8131，Fax: 099-285-8131
封筒に「公募書類」と朱書し，書留郵便で送付して下さい．なお，二次審査として面接を行う場合があります（面接の際の旅費は支給しません）．

学科の教員組織および専門分野等についての詳細は，鹿児島大学ホームページ　http://www.kagoshima-u.ac.jpの理学部地球環境科学科の項目を御覧下さい．



紹　介

富山市科学文化センター収蔵資料目録　第18号

飛騨帯の地質と岩石
―加納標本―

2005年３月発行．
富山市科学文化センター，Ａ４版167頁
定価1000円（送料340円）

Special Publications from the Toyama Science Museum No.18
Geology and Petrography of the Hida Complex, Central Japan
- Dr. Kano's Rock Collection -

日本列島の地質は，旧地質調査所（現独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター）や大学・民間人の地質調査によって現在ではかなり詳しくわかってきている．しかし，旧地質調査所を除く大学や民間の研究機関では，地質調査のプロジェクトが終了しさらにその研究者が定年などで職場を去ると，一部を除いてたいていは貴重な標本が処分され，資料として残ることは稀であった．こういった状態は現在でも続き，定年を間近に控えた地質学者にとって自分の集めた標本をどうするかが悩みの種で，特に地域地質を行ってきた地質学者の中には，正に忸怩たる思いで生涯をかけて研究した標本を「始末」しなければならなかった先輩も多いことであろうと思う．

山口大学理学部教授の加納　隆博士は，40年近くの歳月をかけて飛騨帯の地質と岩石を精力的に調査研究され，膨大な標本を採集するとともに，その研究成果を42篇に及ぶ学術論文として発表されてきた．

本書に加納氏も書いているが，ヨーロッパの大学などでは，過去の研究者が研究した資料は大切に標本庫に保管され，何時でもそれらを見ることができるようになっている所があるようである．

残念ながら，日本の現状は上述のようにそうなっていない．そこで，富山市科学文化センター（市立の科学博物館）は，加納氏から相談があった時，このような研究に裏付けられ，きちんと整理された地元の標本を収蔵保管し，後の研究や教育に生かすようにすることは博物館の活動の大きな役割の一つであると考え，「加納標本」として飛騨帯の岩石4,775点の標本を学術論文とともに受け入れることにした．

受け入れるにあたっては，これらの標本を後の世代の研究・教育に役立たせることが出来るように，すべての標本の登録番号・採集地・岩石名・収蔵場所を記したリスト，すべての標本の採集地を地図上にプロットした標本位置図を「収蔵資料目録第18号」として出版することにした．収蔵目録には，初めに加納氏による「飛騨帯研究小史（私史）」と「飛騨帯の地質と岩石」の２章が含まれている．これで，単なる「収蔵目録」としてのものだけでなく，現時点での飛騨帯の概要がわかる書物として利用価値が高まったと思っている．これがここに紹介する「富山市科学文化センター収蔵資料目録第18号　飛騨帯の地質と岩石　－加納標本－」である．

飛騨帯は日本列島最古の岩石が産出する地質体で，これら試料は富山および日本列島の大地の成り立ちやその変遷・大陸の成り立ちなどを研究する上で大変重要な資料となるものである．

内容は以下のようになっている

１．まえがき
２．飛騨帯研究小史（私史）
　2.1　広域地質調査と構造区分，岩石記載の問題点
　2.2　飛騨片麻岩の構造解析と岩相層序区分
　2.3　眼球片麻岩と交代作用
　2.4　神岡鉱床の地質学と飛騨片麻岩の構造
　2.5　火成岩（深成岩）起源の片麻岩「メタベーサイト」
　2.6　変成作用を受けた花崗岩「飛騨花崗岩」
　2.7　大陸の岩石へ
３．飛騨帯の地質と岩石
　3.1A　東部地域（宇奈月地域）
　3.1B　東部地域（布施川―片貝川―早月川地域）
　3.2　中部地域（千石川―常願寺川―和田川―小口川―熊野川―長棟川地域）
　3.3　西部地域（久婦須川・万波川―野積川―大長谷川―百瀬川―利賀川―庄川―水無―宮川―天生―小鳥川地域）
　3.4　3.4　飛騨帯中～南部（神岡）地域（高原川―金木戸川―船津―下之本―流葉山地域）
　3.5　黒部川流域～北アルプス地域
　3.6　飛騨帯，飛騨外縁帯各地
　3.7　飛騨帯各地域の形成過程
４．登録標本一覧
５．登録標本位置図

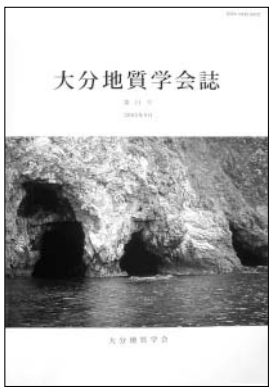
「加納標本」とともに，本書が，飛騨帯や日本列島の生い立ち・大陸の起源などを研究する今後の研究および教育に大いに活用されることを期待するものである．

なお，本書を希望される方は下記「富山市科学文化センター協力会」へ代金1,000円+送料340円　合計1,340円を添えて申し込めば送ってくれる．

購入先：
〒939-8084　富山市西中野町　1-8-31
富山市科学文化センター協力会

（赤羽久忠）

大分地質学会誌　第11号



2005年９月１日発行，Ｂ５版，76ページ，会員頒布

1993年12月に誕生した大分地質学会は1995年に機関紙を創刊し，本年ついに第11号を発行するに至った．発足当時は大分県地質同好会と称したが，翌年より現在の名称に改めて，地域の地質学の普及と振興に貢献してきた．現在百名を超える会員を抱えた会の活動内容については，長年会長として運営に努力されている野田雅之氏によって，本誌「日本地質学会News」，第１巻，第８号（1997）にすでに紹介されている．

同会の出版物には年１回発行の会誌のほかにすでに６巻に達する特別号（１巻のみ別冊と題されている）がある．会誌の内容をみると，専門的論文から啓蒙的解説，さらに地学教育関係の報告にまで及ぶ，間口の広い性格のものになっている．一方，特別号には，九州地方の地質・古生物に関するモノグラフやシンポジウムの報告が掲載されており，いわば地域発信の紙上自然史博物館の感じさえする．これらは，野田氏の誇るように紙質・製本ともに上質の印刷物であり，そこに学会の

水準の維持に傾けられた会員の並々ならぬ熱意をうかがうことができるのである．

ここに紹介する会誌第11号は，この学会誌の特徴をよく示す内容となっている．巻頭の原著論文の野田雅之：「特異な個成長を示すイノセラムス（補遺II）」は，このグループの専門研究者として知られる同氏の重厚な古生物学報告であり，大分地質学会の姿勢の表徴とも言えるだろう．これに続いた，特別講演の岡田博有：「イタリア　ルネッサンスの地質学」は，フィレンツェ地域に残るルネッサンス期の数々の地質学的遺産ないし名所を色彩豊かな写真で紹介した紀行録である．さらに寄書における同氏の「デンマークのK/T（白亜紀/第三紀）境界」は，ダニアン階の模式地におけるK/T境界に関する現地の露頭のカラー写真などを交えた懇切丁寧な解説であり，講演録と相まって，地質学の進歩なしは研究的展開についての興味をいやましに高めることであろう．同じく寄書にある堀　五郎：「大分の自然景観を保護しよう－鬼の箕山火山の研究を通して－」は，観光開発の名のもとに貴重な自然景観が破壊されていく現状を憂えた著者の火山地形･地質の解説と保護論である．また総合学習指導の項では，玖珠（くす）町立日出生（ひじゅう）中学校研究同人による「地域の自然や歴史を素材にした総合学習」が豊富な写真記録と表により興味深い研究指導の実態を伝えている．

本誌巻末には学会記事が掲載されていて，これにより年間の学会活動をうかがい知ることができる．そのなかに「大分県地質資料集」が企画され，目下準備中と記されている．刊行される日がすこぶる楽しみである．地域に腰を据えた研究・教育そして普及活動を実行している会員制の組織は他にも少なくないが，大分地質学会はその代表的存在であると思われる．

最後に本誌ないし学会に関する問い合わせ先を記せば，以下の通りである．

〒879-6756

大分県豊後大野市緒方町徳田246

佐藤祐一郎気付　大分地質学会．

（高柳洋吉）

新版地質図・報告書類

地域地質研究報告（５万分の１地質図幅）「生野地域の地質」

吉川敏之・栗本史雄・青木正博　著

産業技術総合研究所地質調査総合センター，2005年２月発行，Ａ４版，48p
定価3,360円

私は，建設コンサルタント会社（以下，「コンサル」と略す）で地質調査を行なっている．地質図をいつも利用しているコンサルの見地から生野図幅を紹介したい．

「生野地域の地質」は，地震の特定観測地域「名古屋・京都・大阪・神戸地区」の一環として，平成13～15年度に調査された研究の報告書である．

報告書は，第１章：地形，第２章：地質概説，第３章：丹波帯，第４章：後期白亜紀火山岩類，第５章：後期白亜紀－古第三紀貫入岩類，第６章：第四紀，第７章：地質構造，第８章：応用地質，文献，付図および英文要旨から構成されている．

第１章の地形では，まず数値地図を利用した段彩図が作成されており，この地域がやや開析の進んだ山地及び丘陵地を主体とし，網目状に発達する谷の様子が視覚的に把握できる．次に，主な山及び河川名を記載した地図と遠景写真は，土地勘がない者にとっては地域全体のイメージがわく資料である．第２章の地質概説は，後述される各地質体の時間・空間の位置付けを地質総括図・地質構造区分図とこの図幅で大半を占める後期白亜紀火山岩類の分布概略図で示し，各地質体の特徴と今回新たに定義した箇所が簡潔に述べられている．コンサルにとっては，まず「調査地域は丘陵地・山地だろうか？分布しているのはどんな地質だろうか？」が知りたく，この１，２章は調査地全体を把握するのに欠かせない．コンサルの調査範囲は５万分の１の図幅から見ると狭い範囲だけに，局所的な露頭データで判断すると調査範囲全体の見立てを誤る可能性が大きいからである．

第３章から第６章は，各地質体の研究史・模式地・分布及び層厚・岩相に関して詳細な記載がなされている．各層の産状については，露頭写真を挿入され判りやすい．丹波帯に関しては，コノドント・放散虫化石の生層序学的研究により層序・構造・地質年代が検討されているが，北条図幅と比較すると各コンプレックスの放散虫化石の示す地質時代に不一致が認められ，八千種・河内コンプレックスの放散虫化石に関して新たな情報が必要とされている．丹波帯の地質図を見ていつも感心するのは，レンズ状に伸びた緑色岩・チャート・砂岩の分布である．露頭を追いかけていった実績が図面に反映され，コンサルにとっては貴重かつ重要な情報源である．

第４章，第５章には，生野図幅で大半を占める後期白亜紀火山岩類と後期白亜紀-古第三紀貫入岩類についての記載で，本報告書の約70%を占める．近畿地方には後期白亜紀に形成されたとする珪長質火山岩・深成岩複合岩類が広く分布する．これらは1960年代に層序が立てられた際に，生野層群のように模式となった地域ごとに層群名が付けられたが，各層群の定義には曖昧さを残しており，正確な分布範囲や累層区分及び相互の関係は将来の課題とされてきた．また，この地域も生野鉱山に代表されるように鉱化・変質作用が著しく，岩相が単調で地質構造が把握が困難であった．本報告書では1980年代末以降に珪長質火山岩・深成岩複合岩類の解明されてきた事象から，層群単位の区分は行なわず，これらの地層を後期白亜紀火山岩類として一括してある．本地域及び周辺に分布する後期白亜紀火山岩類の岩相上の特徴は，ほぼ普遍的に大規模な流紋岩-安山岩火砕岩を主体とするため，岩相だけで累層区分するのは困難である．ここでは詳細な分布を調べることで地質構造を認定し，10の独立した累層区分がなされている．各累層の記載には，地質踏査結果と薄片写真と供に岩石記載がなされ，現地調査の重要性を再認識させられる．また，放射年代が掲載されているので時間軸をもとに層序（堆積順序）がイメージしやすい．

第６章は，第四紀の段丘・山麓緩斜面堆積物・地すべり堆積物・沖積層についての記載である．コンサルにとっては，表層に分布する第四紀堆積物の分布・層厚が気になるところである．この図幅では，地すべり堆積物の分布が示され注目されるが，分布地質と色調が同じであるため識別しにくい．防災の面からは，これらの未固結の堆積物の分布・層厚と基盤岩の構成鉱物を反映した堆積物（粘土質か，砂質か）は重要になると思われる．

第７章の地質構造では，断層・褶曲・カルデラ構造・重力異常について説明がなされている．我々コンサルが最も注意すべき断層については，明確な証拠のもとに地質図では実線で記載され，調査前段階で判る貴重な資料である．しかし，地質図に記載されていない（変位が明確でないため判らない）断層破砕帯が調査時に発見される場合もある．これを解消するための一つの手段として線状構造（リニアメント）を示した図面があれば，調査時にも気をつけて踏査できると思われる．カルデラ構造に関しては，重力異常と供に記載されているので想像しやすい．このような広域的に行なわれた物理探査結果（これからは３次元か）は資料として掲載するのは地質の大構造を理解する上で重要になると思われる．

第８章の応用地質では，地下資源・砕石及び採石・地すべり・温泉について説明がなされている．地下資源の項では，生野鉱山をはじめとする金属鉱床９箇所，非金属鉱床５箇所が記述されている．現在，生野図幅内に稼業中の金属鉱山はないため，本報告書では文献情報にもとづいて，往時の鉱床状況について記述してある．ここに掲載されている図面を見ると，鉱床の水平的・垂直的帯状分布が把握され，裂罅に胚胎する状況が判る．

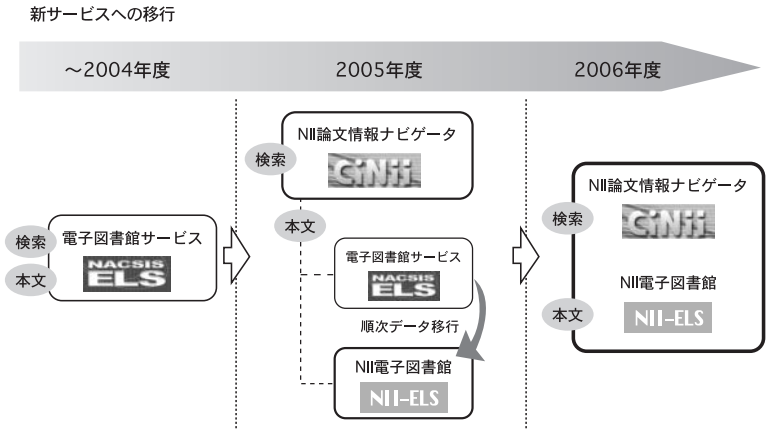
以上，感想といくつかの要望を書かせてもらったが，地球環境・自然災害に対応する基礎資料としての地質図幅はこれからますます重要性を増すものと思われ，詳細な地質図を作りあげられた方々に対し敬意を表したい．

（吉村辰朗）

国立情報学研究所（NII）のサービスが新しくなりました．

～地質学雑誌第１巻から閲覧できます～

http://ci.nii.ac.jp/



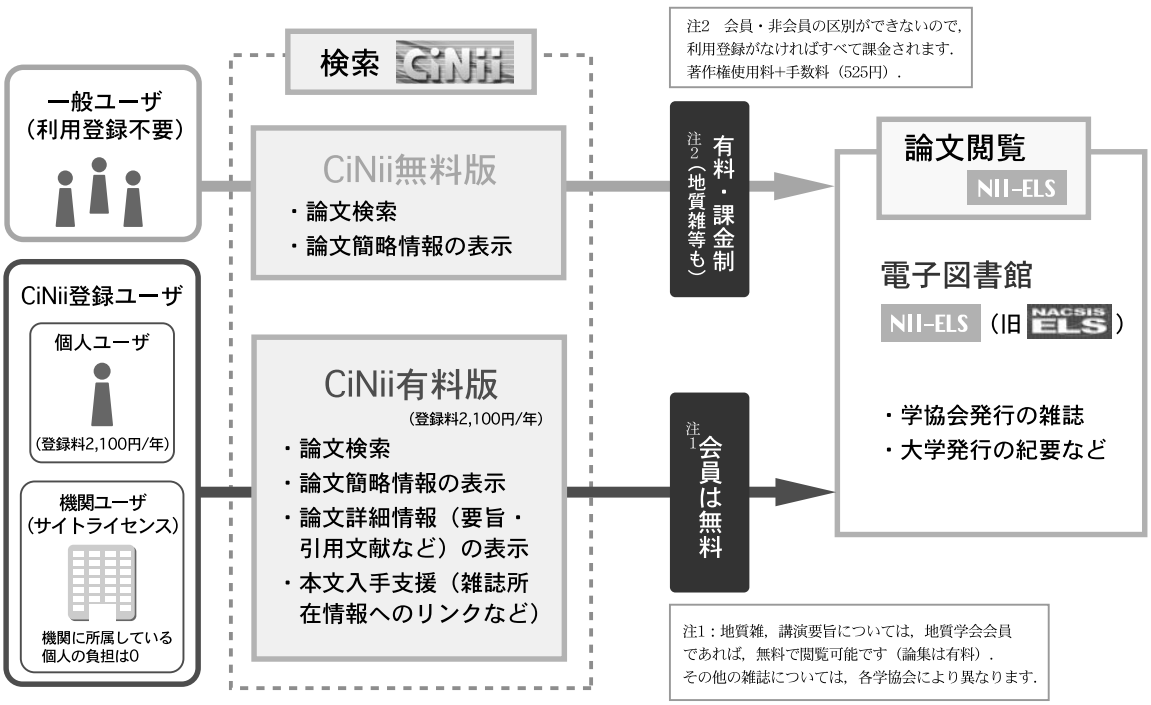
これまでご利用いただいていた電子図書館サービス(NACSIS-ELS)は，NII論文情報ナビゲータサービス"CiNii(サイニイ)"と一本化し，2005年4月1日から新たな学術情報サービスを開始しました．この新サービス開始に伴い，**これまでご登録いただいたNACSIS-ELS のIDとパスワードとは別に，新たにCiNii用のIDとパスワードの申請・取得が必要となります**（会員証明を済ませた書面での申請は不要で，各自でweb画面からの申請が可能です）．利用登録をしなくても，題目と出典元など簡易書誌情報までは閲覧が可能です．利用登録を行えば，これまで同様，地質学雑誌，講演要旨を全文閲覧できます（地質学論集は，別途著作権使用料が課金されます）．**現在データベースの移行途中のため，閲覧の際には文献によって，NACSIS-ELS（旧サービス）もしくはCiNii（新サービス）どちらかのID とパスワードが必要となります．2006年度からは，すべてCiNiiに一本化され，旧サービスのIDとパスワードは使用できなくなります．**

CiNiiを利用するためには，利用申請（登録）と，登録料2,100円/年が必要となります．（大学・研究所等に所属されている方で，所属団体が，NII と機関別定額制契約をしている場合は，個人負担をせずに，自由にアクセスできます．契約団体一覧はNIIのHPで確認ができます）．

サービス内容，利用登録の詳細については，http://ci.nii.ac.jp/　をご参照いただくか，下記までお問い合わせ下さい．

CiNiiとは・・・

国立情報学研究所（NII）では，国内外の有用な学術情報資源との連携を可能とすることを目標とし，各種サービスを提供しています．その内の１つとして，NII論文情報ナビゲータ“CiNii”を提供します．CiNiiでは，学協会で発行された学術雑誌や大学等で発行された研究紀要などを検索し，検索された論文の引用文献情報（どのような論文を引用しているか，また，どのような論文から引用されているか）をたどったり，本文を参照したりすることができます．



【利用申請に関する問い合わせ先】
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2
国立情報学研究所開発・事業部 コンテンツ課利用申請担当
E-mail: user-request@nii.ac.jp　Tel：03-4212-2300

CALENDAR

2005.11～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

11月　November

☆北海道支部地質学講演会「アスベストー地質学・医学から読むー」
11月３日（文化の日）午後１時30分から６時
場所：北海道大学・理学部・５号館大講堂
http://www.geosociety.jp

○第６回こどものためのジオ・カーニバル
11月５日（土）～６日（日）
場所：大阪市立科学館
http://geolo.sci.osaka-cu.ac.jp/geo/2005geo.html

○活断層調査成果および堆積平野地下構造調査成果報告会
11月10日（木）～11日（金）
会場　こまばエミナースホール（東京都目黒区大橋2-19-5）
問い合わせ：
（財）地震予知総合研究振興会 地震調査研究センター
電話：03-3295-1501　FAX：03-3295-1507

12月　December

○第15回環境地質シンポジウム
主催：地質汚染－医療地質－社会地質学会
場所：横浜情報文化センター情文ホール
http://www.jspmug.org/

○地質学史懇話会総会
12月23日（金・祝）13：30～17：00
場所：北とぴあ（東京・王子）
講演：赤木三郎：徳田貞一の人生
　　山田直利：濃飛流紋岩の調査研究史

2006年

1月　January

○第３回国際デルタ会議（IGCP-475年会）
１月13日～18日
場所：ブルネイ・ダルサラーム大学
http://unit.aist.go.jp/igg/rg/cug-rg/ADP.html

2月　February

○日本古生物学会第155回例会
２月３日～５日
場所：京都大学総合博物館
http://ammo.kueps.kyoto-u.ac.jp./palaeont/

3月　March

○2006年日本地理学会総会および春季学術大会
３月28日（火）～29日（水）
場所：埼玉大学
http://wwwsoc.nii.ac.jp/ajg/

5月　May

☆日本地質学会第113年総会
５月14日（日）
場所：幕張メッセ国際会議場
http://www.geosociety.jp

○地球惑星科学連合2006年大会
５月14日（日）～18日（木）
場所：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/meeting/index.htm

7月　July

○国際鉱物学連合第19回総会学術講演会（IMA2006-Kobe）のお知らせ
７月23日（日）～28日（金）
場所：神戸国際会議場
http://www.congre.co.jp/ima2006/

○ZMPC2006（International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals）
７月30日（日）～８月２日（水）
場所：米子コンベンションセンター（鳥取県米子市）
http://www.zmpc.org/

8月　August

○ISC2006　FUKUOKA
８月27日～９月１日
場所：福岡国際会議場
http://www.isc2006.com/index.html

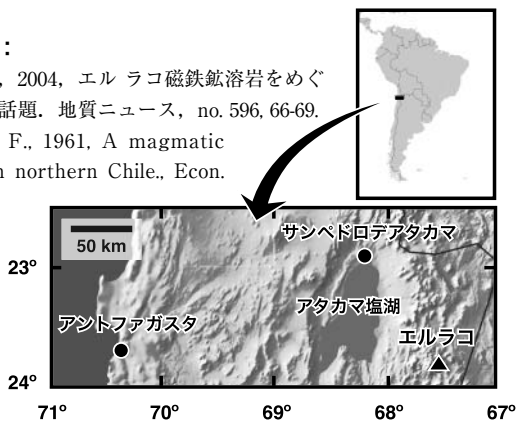
表紙紹介

チリ・El Laco 磁鉄鉱溶岩

写真・文　**萬年一剛**（神奈川県温泉地学研究所）

チリ北部，アタカマ塩湖の北西にそびえるエルラコ山の山腹にある磁鉄鉱鉱床であるエルラコ岩体は，Park (1961) により初めて記載され，鉄に富んだマグマが地下浅所に貫入したり，地表に噴出したものと解釈された．しかし，最近になって同位体化学的な研究により，この岩体が熱水性の交代作用によって出来たとする見方がでている．筆者は2004年に同国で開催されたIAVCEI（国際火山学地球内部化学協会）のプレミーティング巡検として企画された，「Field Trip A3 - El Laco Magnetite Deposit」に参加し，「磁鉄鉱溶岩」の様々な形態を観察する機会に恵まれた．「磁鉄鉱溶岩」は，気泡を含むことや，アアクリンカのようなものが表面に付くなど，一見しただけでは玄武岩質の溶岩流とほとんど見分けがつかない．また，この岩体では「火砕流」や，「岩脈」，「シル」など，およそ火山岩の形態としてあげられるものはすべてみることが出来る．加えて，この岩体の噴出時期は2Maであるにもかかわらず，きわめて新鮮で，つい数年前に噴出した溶岩のようにみえる．筆者は鉱床学の専門ではないが，形態的に見てこのような岩体が熱水性の交代作用によってできたものとするのは，相当難しいように思えた．なお，この鉱床に関する最近の論争については石原（2004）による要を得たレビューがあるので参照されたい．また，筆者の個人ページ http://homepage3.nifty.com/volcanoes/chile/index.html　では，さまざまな磁鉄鉱溶岩の写真を掲載しているので，ご興味のある方はご覧頂きたい．

参考文献：
石原舜三，2004，エル ラコ磁鉄鉱溶岩をめぐる最近の話題．地質ニュース，no. 596, 66-69.
Park, C. F., 1961, A magmatic “flow” in northern Chile., Econ. Geol., **56**, 431-441.



エルラコの位置　陰影図作成にはスペースシャトルによる標高データ（SRTM）を利用した．

TOPIC

セクシュアル・ハラスメントおよびアカデミック・ハラスメントのビデオを紹介します

田崎和江（女性地球科学者の未来を考える委員会・代表）

金沢大学では７月に理学部の教職員約100名を対象に，『なくそう，防ごう，気づこう，アカデミック・ハラスメント』（約12分）と『職場のセクシュアル・ハラスメント，ジェンダー・フリーな組織をめざして』（20分）のビデオを上映し，好評でした．大学内の男女共同参画委員会とセクハラ相談委員会の発案で，順次，各学部でこのビデオを観てもらい，セクシュアル・ハラスメントおよびアカデミック・ハラスメントとは何か，どのような場合や行為が該当するのか，また，その法律や規則を理解していただきました．大学が誰にとっても快適で楽しい研究・教育・労働の場であるために，10月にもビデオの上映を企画しております．

この話を先日の地質学会の折りに女性会員にしたところ，「是非，うちの大学でも見せたい．」という要望がありましたので，ここにいくつかご紹介します．大学向け，会社向けなどが日本経済新聞社，NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク（NAAH），アスパ株式会社，労働省からでており，値段は9,000円，18,000円，30,000円，38,000円です．時間は12－20－27分といったところですので，２本を組み合わせて見るとよいでしょう．その折りに，専門家や相談員などが同席して質疑応答の機会をもつとより理解が深まります．

さらに，このビデオを学生・院生にも見せたいと思います．

☆リーフレットシリーズ・３　　好評発売中！！

『大地をめぐる水―水環境と地質環境―』

第１作「大地の動きを知ろう―地盤・活断層・地震災害―」，第２作「大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo-Pollutions」に引き続きリーフレットシリーズ第３作「大地をめぐる水―水環境と地質環境―」が発売になりました．

Ａ２版裏表カラー印刷，ハンディータイプでさらにポスターにもなります．

ご希望の方は以下の要領でお申込下さい．

会員価格300円　非会員価格400円

申込方法：学会事務局宛に，希望部数を記入し，返信封筒（切手貼付のこと）を入れてお申し込み下さい．

※少部数の場合は，代金は切手で同封可．

なお，サイズが横15cm・縦21cm，重さ25ｇ/部ですので，郵送につきましては，以下のようにお願いします．

定型封筒の場合：90円切手貼付．ただし，二つ折りにしての郵送となります．

定型外（15cm×21cm以上）封筒の場合：130円切手を貼付．

ジオロジストのための

法律メモ

著作権譲渡等同意書の解説（12）

弁護士　高木宏行

著作権譲渡同意書では，複製権や公衆送信権は著作者から学会へ譲渡することとしていますが，著作者人格権については，「行使しないこと」という定め方をしています．これは，著作者人格権が，一身専属権であって譲渡することができないからです（著作権法59条）．したがって，著作権譲渡同意書で著作権が学会に帰属することとなっても，著作者人格権は，著作者に残ることになります．ですが，その著作者人格権を行使できるままにしますと，学会による著作物の管理のうえで支障が生じてしまうので，不行使特約を予めしておくことにしています．

著作人格権には，公表権（18条），氏名表示権（19条），同一性保持権（20条）があります．

著作者は，その著作物でまだ公表されていないもの（その同意を得ないで公表された著作物を含む）を公衆に提供し，又は提示する権利，すなわち公表していない著作物を公表されない権利を有しており，これを公表権といいます．

公表は，発行（その性質に応じ公衆の要求を満たすことができる相当程度の部数の複製物が作成，頒布されることをいいます.），上演，演奏，上映，公衆送信，口述，展示，送信可能化の方法で公衆に提示された場合をいいます（３条１項，４条１項，２項）．二次的著作物である翻訳物がこれらの方法で公衆に提示された場合も原著作物が公表されたものとみなされます（４条３項）が，翻訳以外の二次著作物が公表されても原著作物が公表されたことにはなりません．

したがって，学会が地質学会誌に論文を掲載しようとする場合に，公表権を行使されますと掲載できなくなってしまいます．

もっとも，この点は公表権に関する著作権法18条２項１号をみますと，未公表の著作物を譲渡した場合には公表することに同意したものと推定する規定が置かれていますので，実際には不都合は生じませんが，理論的には契約の際に同意を与えていなかったことが証明されると公表権侵害を問われる可能性は残ります．そのために不行使特約を結んでいます．

次に，氏名表示権ですが，これは「著作者は，その著作物の原作品に，又はその著作物の公衆への提供若しくは提示に際し，その実名若しくは変名を著作者として表示し，又は著作者名を表示しないこととする権利（19条１項）」，すなわち，著作者の同意しない著作者名が表示されることを禁止することができる権利をいいます．

著作物を複製するなどして利用しようという場合には，著作者がこうして欲しい，という意思を表示していれば，その意思にしたがって表示をし，そうでない場合にはその著作物に著作者が表示しているとおりに表示することになります（19条２項）．但し，19条３項にしたがう限りにおいて，省略することもできます．

もっとも，このように著作者の独自の氏名公表を認めますと，学会の管理上は煩雑になってしまいますし，論文としての慣行を遵守していても違反を問われてしまいます．そこで，上記のように不行使特約を結ぶことにしています．

最後に，同一性保持権ですが，これは「著作物及びその題号の同一性を保持する権利」をいい，「その意に反してこれらの変更，切除その他の改変を受けない」権利をいいます（20条１項）．

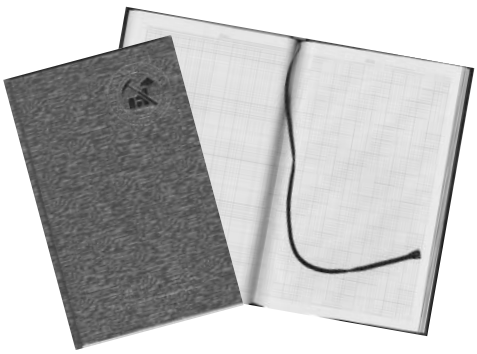
著作物の表現に対して，変更，切除，その他の改変がされると同一性保持権侵害となります．論文に関しては，法政大学懸賞論文事件があり，懸賞論文を雑誌に掲載するにあたって大学が，「現われ」を「現れ」に，「表われ」を「表れ」に，「決って」を「決まって」に変更し，また「…，等」とされている部分を「…等」とし，「・」を「,」に改めた事件で同一性保持権侵害の有無が問題となりました．大学側は，やむを得ない改変（20条３項）に該当するので許されると主張しましたが，判決は，やむを得ない改変には当たらないとして，同一性保持権侵害を認めました．

この点，例えば，学会がWeb上に論文を掲載しようとする場合や，それを許諾するときに，使用文字の制約から一定の改変を行わざるをえないことも考えられますので，予め不行使特約を結んでいます．

弁護士　高木宏行
（キーストーン法律事務所）
日本地質学会顧問

第二東京弁護士会所属
現在　東京弁護士会・第二東京弁護士会合同図書館嘱託，（財）日弁連交通事故相談センター東京支部　副委員長

待望！！
学会オリジナルフィールドノートが出来ました．



サイズ：12×19cm．ハードカバー，ビニールレザー加工，金箔押し．
カラー：チョコレートブラウン．

用紙は野外調査に最適な，雨に濡れても丈夫な高級紙・レインガードを使用しています．是非ご活用下さい．

ご購入を希望の方は，学会事務局まで．　会員頒価　500円／冊．

写真１　School Seggauのワインセラー．ここでは，５つの地ワインが参加者全員に振舞われた．

写真２　夕食後のStyrian night．時折雄叫びを上げながら踊る人々．

院生コーナー

7th International Eclogite Conference（第7回国際エクロジャイト会議）参加報告

京都大学大学院理学研究科地質学鉱物学教室
博士課程２年
松本啓作

第７回国際エクロジャイト会議（7th International Eclogite Conference: 7th IEC）が2005年７月３日から９日まで，オーストリア･グラーツ市の南に位置するLeibnitzという小さな町の小高い丘の上の宿泊兼会議施設School Seggauで開催された．今回の参加者は，延べ31カ国から約160人．前回の新居浜会議より約40人多い．ヨーロッパからの参加者の多くは自家用車で会場まで来ており納得の出来うる人数である．しかし，日本人の参加者は，乾　睦子（国士舘大），小畑正明・平島崇男・中村大輔・松本啓作（京大），岡本和明（台湾中央研究院地球科學研究所），辻森 樹（米国スタンフォード大）の７名（敬称略）．日本のエクロジャイトを研究している研究者が参加できなかったことは残念であった．

会議は３日間の講演会，２日間の日帰り巡検，２泊３日のPost Conference巡検で構成されており，以下の日程で行われた．

７月２日：7th IEC主催のグラーツ周辺のPre Conferrenceツアーがあった．

７月３日：会議開催前夜にSchool Seggauの中庭でウェルカムパーティーが催された．

７月４日：午前８時45分，IEC運営委員会を代表して京大の平島が開会の挨拶，それに引き続き，グラーツ大学のG. Hoinkiesが6月に急逝された第５国際エクロジャイト会議委員長でもあったETH（スイス）のV. Trommsdorff名誉教授を偲ぶメモリアルスピーチを行った．午前９時からRheology - Tectonics - Modelsに関する招待講演で実質的な会議が始まった．２番目の講演者，ETHのT.V. Geryaらはコンピューターシミュレーションによるアルプス造山運動の復元を行った．話の内容・スライドの色使い・講演者の雰囲気，どれをとっても，印象に残る講演の一つであった．午後１時半からTectonics & Regionalというセッションの口頭発表が実施され，夕方５時以降は，それらのセッションのポスター発表（松本発表）が実施された．夕食後にSchool Seggauの地ワインの試飲会が催された（写真１）．

７月５日：雨天にもかかわらず，日帰り巡検が実施された．巡検地は，SaualpeとKorapleのいずれかを選択できたので，私はSaualpeに参加し，約１世紀前に世界で始めてエクロジャイトが報告されたとされる露頭を訪問した．案内者のInnsbruck大学（オーストリア）のC. Millerたちはこのエクロジャイトの最高変成条件がコース石領域に達していないことを残念がっていた．一日中断続的に雨が続いたが，巡検は夕刻まで続き，宿に帰り着いたのは６時ごろであった．巡検の詳細についてはさらに後述する．夕食中にStyrian nightという催し物が開かれ，地元の独特なダンスを満喫した（写真2）．

７月６日：午前中はGeochronology - Geochemistry，午後はPetrologyのセッションの口頭発表（平島: 中国Suluかんらん岩，辻森:グアテマラ ローソン石エクロジャイト発表）と夕方からのポスターセッション（小畑，乾，中村発表）が実施された．午前中の講演では，前日の野外巡検を受けて，SaualpeとKorapleの新しい年代論が披露された（詳細は後述）．夕食前にエクロジャイト会議の組織委員会が開かれた．

７月７日：日帰り巡検２日目．見学先はSaualpeとKorapleのエクロジャイト露頭に加え，Styriaのマントルゼノリス（スピネルかんらん岩）が追加された．私はKoralpeに参加し，斑レイ岩がエクロジャイトに変成する過程を観察し感激した．夕食後にJazz nightという催し物が開かれ，ジャズ･ライブを堪能した．ちなみにこのバンドのリーダはグラーツ大学の教授でA. Proyerの恩師とのこと．

７月８日：午前はFluids & Melts, 午後はMethods, Diamondsのセッションの口頭発表（岡本発表:カザフスタン）と夕方からのポスターセッションが実施された．Fluids & Meltsのセッションの招待講演者はフランスのP. Philippot，その後一般講演で，J. Hermann（オーストラリア），R. Klemd（ドイツ），M. Scambelluri（イタリア）と続きヨーロッパでは流体がらみの研究が盛んであることが伺える半面，高級装置を大量に保持する日本から先端的な年代論への貢献が無いのも残念に感じた．夕食後に閉会式が催された．

７月９日：朝解散．私と平島は地質調査のためチェコに移動したが，大型バス１台分の参加者はTauern Windowへ２泊３日のPost巡検に出発した（日本人は誰も参加しなかった）．Post巡検中，雨と雪に見回れ，当初の目的を達成できなかったとのことであった．

7th IECは，全員が一つの会場で講演を聞くという形式であった．大規模な学会では，聞きたい内容の講演が同時間帯に重なり，互いの知識の共有が困難となるという欠点があるが，IECのような小規模な国際会議では，その点は優れている．また，4th IECから参加者全員が同じ宿泊施設に滞在しているので，講演後も，食堂やカフェなどで活発に議論が行える点においても優れている．個人的な印象として，この国際会議をとおして多くの参加者と知り合いになれるアットホームな雰囲気もあった．

7th IECは，主に開催国に産するエクロジャイトやそれに関連する岩石の研究成果の最新情報を勉強できる最高の機会である．IECは，1983年にフランスのD.C. Smithの提案でフランスのStrasburgで第一回が開催され，最近では6th IECが2001年に日本の愛媛県新居浜市で開催された．次回は，2009年に中国の西安で開かれる予定である．以上は，講演重視の本会議であるが，巡検主体のフィールド･エクロジャイト会議も実施されており，前回は2003年にノルウェーのSeljeで開催され，次回は2007年にイギリスのスコットランドで開催されることが，IECの組織委員会の総会で決まった．

写真３　５日の巡検．土砂降りの中の巡検だったので，参加者全員が雨合羽を着用し，山を登った．

写真４　７日の巡検．脱輪したバスと困惑するProyer博士．

今回の会議で最も注目すべき研究成果は，SaualpeとKorapleのエクロジャイトの変成年代が一新されたことである．D.A. Carswell（1990）の教科書（Eclogite Facies Rock）では，G.T.R. Droopらがアルプス変成帯全域の総括を著した．彼らはSaualpeとKorapleに産するエクロジャイトをヴァリスカン期の産物としていた．今回，R. Oberhänsliら（2004）が東アルプス変成帯の地質帯をより詳細に区分した地質図を公表した．彼らは，東アルプス変成帯の変成年代は約90-70Maと総括し，SaualpeやKoralpeを含む東アルプス変成帯のエクロジャイトは，アルプス期の産物とする新データを打ち立て，15年前のアルプス全域の総括を覆す結果をもたらした．その結果，エクロジャイトのジルコンSHRIMP U-Pb年代を比較すると，アルプス弧では，東で古く（約90-70Ma）西で若い（約60-35Ma）地域差が見えてきた．私のホームページ（http://www.kueps.kyoto-u.ac.jp/～keisaku/iec.htm）にR. Oberhänsliら（2004）のアルプスの地質図等をアップロードしているので，興味のある方は，是非アクセスしていただきたい．D.A. Carswell（1990）の教科書をお持ちの方は，当時の地質図と最新のものを比較されたい．なお，全ての講演要旨と巡検案内書がMitteilungen der Osterreichischen Mineralogischen Gesellschaft Band 150 に印刷され，PDFが7th IECのオフィシャルサイト（http://www.uni-graz.at/IEC-7/）にアップロードされている．

上記以外のトピックスの一つは，パプアニューギニアからの4Maのエクロジャイト（Bladwin et al. 2004）からコース石を確認したことである．これは誰もが予想をしなかった地域からの超高圧エクロジャイトの発見であるとともに，その若さが注目を集めた．今後の続報に多くの参加者が期待している．

今回の巡検は，大型の観光バスで山の中まで案内してもらえた．１日目，特に天気の心配をせずにバスに乗り込み第一ストップまでの道中を転寝しながらオーストリアの田舎景色を眺めていると徐々に雨が降り出した．第一ストップ直前でバスから下ろされ，その時点で土砂降りでした．土砂降りの中（写真３），露頭の説明をして下さったMillerらに心から感謝致する．大雨の中，見知らぬ土地を歩きまわされた経験は一生の思い出となるだろう．巡検二日目，前日の天気予報では，またもや雨模様との予報だったが，幸いにしてこの日は，どんより曇っているだけで雨が降らなかったことに感謝．第二ストップで，エクロジャイトと未変形の斑レイ岩との遷移帯が数cm～数10cmオーダーで観察できた露頭は印象的だった．地殻物質が地下深部まで沈み込んだとしても，結局“水”が無ければ全く何の反応も起こらない，ということを痛感した．その後，第三ストップへ向う道中で，とんでもないハプニングに見舞われた．道路工事を避けようと，巡検バスが工事現場を迂回しながら走行していたところ，突然「ドン」と大きな音がしてバスが停車した．脱輪していた（写真４）．路肩に車輪が埋まってしまってどうすることも出来なかったので，急遽予定を変更して巡検ガイドブックに載っていない露頭に案内された．その後，バスまで戻ったが，状況に何の変化も無く，仕方なくバスが走ってきた道を１km程度歩いて戻ると，新しいバスが待機中だった．参加者は，そのバスに乗って無事に宿舎まで戻れたが，突然の事故にもかかわらず携帯電話で迅速な対応を取ってくれたProyerに参加者一同は感謝した．

８日の夕食後の閉会式の席で，新居浜の会議から今回の会議までの期間，IEC運営委員会のプレジデントだった平島とUHP TASK Group代表のL. Dobrzhinetskayaから，グラーツ大学のHoinkesを始めとする事務局の方々に労いの感謝の言葉とささやかなプレゼントが贈られ，盛大な拍手を持って会議は幕を閉じた．このような国際会議の開催は，多くの人の協力なくしてはありえない．事務局を勤められたグラーツ大学の方々，巡検案内人の方々に感謝したい．次回の野外巡検 は，2007年のスコットランドで開催予定であるが，詳細は決まっていない．今回は，残念ながら院生として参加したのは私一人だけであったが，エクロジャイトやその他の高圧変成岩を研究している若手の研究者や大学院生の方々には是非とも参加をお勧めしたい．世界中から集まる，普段は教科書や論文でしかお目にかかれない大先生や同世代の仲間と親交を深めることは大変刺激になるし，日本とは全く異なる大陸衝突帯に足を踏み入れることは，経験がものをいう地質学の世界ではかけがえのない財産となるであろう．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

t02h106@amail.shinshu-u.ac.jp　北沢俊幸（信州大）
iba@eps.s.u-tokyo.ac.jp　伊庭靖弘（東京大）
tksmcdr@hiroshima-u.ac.jp　高島千鶴（広島大）
f04j003d@mail.cc.niigata-u.ac.jo　梅津慶太（新潟大）

院生（研究生）の方へ「院生割引申請」について

2006年度（2006.4～2007.3）院生割引会費の受付開始

2001年より会費の院生割引制度が設けられています．定収のない院生（研究生）については，本人の申請により院生割引会費が適用されます．つきましては，次年度（2006年度）の会費について申請受付を開始致しますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出して下さい（郵送）．**会費請求書発行の都合もありますので，請求書発行前の受付〆切は11月24日（水）と致します．最終〆切は２月28日（火）までとし，最終〆切までに申請のない場合は，通常の正会員価格の請求となりますのでご注意下さい．なお，これまで（～2005年度）の会費についての申請受付は終了していますので，2006年度分からの申請のみ適用となります．**

注意！！
毎年更新となりますので，今年度の割引を受けている方で，次年度も該当する方は改めて申請して下さい（来年３月まで院生（研究生）の方も申請すれば適用）．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6階
日本地質学会

2006年度日本地質学会会費院生割引申請書

（新規・継続）

日本地質学会　御中

私は，運営細則第12条第1項（1）に基づき，会費の院生割引を申請いたします．

年　　月　　日現在

会員番号：

会員氏名：

所属：　　大学　　研究科

専攻　　前期・後期　　年在学中

上記，本学の学生につき，定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教官（等）

所属：

氏名：　　印

請求書発行前受付〆切
2005年11月24日（木）

最終〆切
2006年２月28日（火）

2005年度　第12回理事会議事録

期　日：2005年７月26日（月）
14：00～18：30
場　所：地質学会事務所
出席者：齊藤会長（４時過ぎ早退），加藤副会長，渡部常務理事・天野副常務理事（４時過ぎ早退）・上砂・大友・公文・倉本・高橋・宮下・向山，橋辺（事務局）
欠席理事：（議長委任）木村副会長，狩野・徐・中井・久田・増田

報　告

１．運営財政部会（部会長-公文，倉本，向山，大友）
総務委員会（委員長-公文）
庶務関係（担当理事-公文）
・学術著作権協会より，同協会と契約している国内の文献提供業者から，著作物のイメージファイルの作成の許諾要望があった．協会としては利用範囲を複写目的に限定し，複写部数を２部以内に限定するなどの厳しい条件を付して許諾するなら，複写利用の新しい現実に対応できるとの結論に達した．その際の著作権の使用料については権利者において決めていただく．以上の限定的許諾を可とした権利者から，同協会が委任をうけて権利処理の代理をするシステムを準備し，代理委任契約を結ぶ．
→文献提供業者に対するイメージファイル作成の許諾，および学術著作権協会との代理委任契約については，承諾する．
著作権の使用料については，基本料（10ページまで）：150円（複写使用料100円＋送信使用料50円），追加料100円（超過10ページごとに）とする．
・国立情報学研究所（NII）での地質学雑誌および論集の閲覧について
次年度から新たな方式になり，会員であっても登録の際に基本料金を払う必要がある．
現在，J-STAGEでは，無料閲覧で提供していることを考慮すると地質学雑誌を全て，無料公開するということも検討の余地がある．
論集は，売り切れたものについては無料公開，他は有料のままとするか？
・外部の賞公募など
１）三菱化学財団より助成決定案内があった．
２）「猿橋賞」（女性科学者に明るい未来をの会）の受賞者公募案内，11/30締め切り→HPに掲載
３）「朝日賞」（朝日新聞文化財団）の受賞者公募案内，8/31締め切り→HPに掲載
・学術会議ニュース７月号が送付された．
→今後，関連する記事のピックアップをNews誌，HP等で紹介する．
・関連団体開催行事共催・後援等
１）群馬県立自然史博物館より特別展（後援）オープニングセレモニー（6/20）への出席依頼（テープカット）があり，会長が出席された
２）第42回アイソトープ・放射線研究発表会（共催）プログラムの送付
３）第８回水環境学会（後援）参加案内→HPに掲載
・海洋研究開発機構より，平成18年度海洋地球研究船「みらい」研究課題公募7/31締め切り→HPに掲載
・大学評価・学位授与機構より，機関別専門評価係わる専門委員選出について，本学会からの推薦者は17年度実施分の委員には選考されなかったとの報告があった．なお，同推薦者は引き続き来年度の委員選出の際に参考にされる．
・挨拶状
１）日本技術者教育認定機構会長変更（会長　大橋秀雄，最高顧問　吉川弘之）
２）石油資源開発（株）（社長　棚橋祐治）
３）新日鉱ホールディングス（株）：ジャパンエナジー（株）（社長　高萩光紀）
４）井上英二新名誉会員（名誉会員推挙のお礼）
５）無機マテリアル学会（会長　安江　任）
会員関係（担当理事-倉本）
１）入退会の承認
入会（正21名）赤松　良，石山達也，内田昌男，宇納貞男，勝木厚成，菅　浩伸，河野俊夫，近藤　恵，須甲武志，芹沢真澄，橘　徹，中村恭之，西森　拓，桧山知代，福井喬士，Bros Regis，増留由起子，三角和弘，三谷典子，三宅　荘，渡聡（正割66名）相澤武宏，秋山美奈子，足立達朗，石井俊輔，岩井隆昌，上田匡将，臼杵宣保，Usubalieva Jarkynai，江川真史，尾芦裕子，大谷美春，大塚洋之，岡田悦郎，岡野和貴，小田島庸浩，上嶋優子，亀井　陽，川村紀子，菊池伸輔，北川陽一郎，Kim・Woo-Seok，久保雄大，栗原 慧，Gurung Jaya Kumar，小安孝幸，昆　慶明，近藤はるか，坂田聖二，佐藤雄大，佐野広記，嶋川未来子，清水直紀，下総麻衣子，砂川幸則，高田里美，田中昭好，田中さつき，田中慎康，田中美那，谷口　綾，長久保恵美，永田紘樹，中山　俊，西上原航，西山雄大，荷福　洸，長谷川仁子，早川直樹，番場厚，蛭田明宏，帆足雅通，松浦広学，松本有希，道口陽子，南澤智美，宮本新平，向井理史，安永　雅，柳田祐樹，山口弘幸，山田　朗，山田国見，吉田健司，和田佑子，和田幸永，渡部哲子　（準８名）芦田貴史，江藤稚佳子，高下将一郎，富山雄太，中原知明，森井一誠，横溝佳侑，渡部　遼
退会（賛１社，正８名）大成基礎設計（株），宮崎政三，朝倉清弐，佐々木直哉，古財佑介，高柳朝一，小林　浩，阿部　求，栗原　新
２）６月末現在会員数
賛助34，名誉74，正4，518（内，院割206），学生34，合計4，660名

関連学会連合（担当理事-天野）
・地質科学関連学協会連合
７/22，地質年代区分問題について検討（地層名委員会と合同）．今後は連合には参加していないが，火山学会にも問い合わせる
・自然史学会連合
・地理関連学会連合

会計関係（担当理事-向山）
・7/13　会計委員会開催

広報委員会（担当理事-大友）
・マスコミ等への広報を積極的に行いたい
・京都大会の学術講演の中で，トピックになるようなものをピックアップし広報する．
行事委員会のマスコミ担当に大友委員長も加わるよう，連絡を取り合う．
ニュース誌編集小委員会（担当理事-大友）
表紙の写真がつきている．広く集めたい．
インターネット運営小委員会（担当理事-大友）
英文ページを早急に作成公開することが委員会に要望された．

２．学術研究部会（部会長-久田，徐）
行事委員会（久田委員長）
・京都大会発表7/8〆切．行事委員会開催7/9，登録の確認，プログラム・会場割り
・発表総数668件（シンポジウム69件，一般セッション口頭335件，ポスター264件）
・緊急展示について，締め切りを８月末とし，News誌およびHPに掲載．
・表彰式と記念講演
石黒氏の講演は市民講演会終了後（授与式の前に），嶋本氏の講演は授与式の後に，各々30分ずつお願いすることとした．
司会：久田健一郎
マスコミ担当：増田（京都大），神谷（京都大），斉藤眞（行事委員会）
専門部会連絡委員会

・新妻層序部会長より，専門部会連絡委員会の開催について検討要請があった．
専門部会連絡委員会担当理事を天野とする．京都大会時に連絡会を開催し，委員長を決定し，今後継続的な運営ができるようにする．

国際交流委員会（徐委員長）
・「地質学会」の国際交流をどうすべきか，学会独自の国際交流とはなにか，今後検討．新たな状況としては，1）いままで国際的な交流を推進してきた学術会議が今後地質関係の国際交流の推進が弱まる，2）新たに学会連合ができ，ここが固体地球の国際交流全般の窓口になる可能性がでてきた，3）現状の地質学会の国際交流はうまくは機能していない．
・具体的な国際交流についての内容を検討して提案する．（公文担当）

ヒマラヤ地質研究委員会（委員長-在田一則）
南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）
地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-高橋正樹）

3．編集出版部会（部会長-狩野，宮下，増田）
地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-久田，宮下＝企画担当）
・今月の編集状況（7月22現在）
本年度投稿論文数55編［論説43編（和文42・欧文1），総説3（和文3），短報6編（和文5・欧文1）ノート2（和文2）特別寄稿2］口絵11（和文8　欧文3）
投稿数昨年比　＋0　査読中　69編
・J-STAGE査読システムの導入について積極的に検討を開始した．

The Island arc編集委員会（担当理事-増田，事務局　渡部・竹内圭史
・アーカイブの電子化については，BS社で費用負担することに決まった．
・アイランドアークのIF値について，04年度は0.843（03年度0.641）にあがった
・誌名の変更：Island Arcとする（Theを取る）．06年発行から予定．
・表紙のデザイン：トモグラフィーを基に新デザインを作成．おもて表紙に記載されている日本地質学会ほか5学会の名称をはずし，裏表紙等に表記する．

The Island arc連絡調整委員会（担当理事-増田，委員長-会田）
・雑誌名変更にともなう変更の手続きを必要に応じて行う予定

企画出版委員会（担当理事-高橋）
・新妻信明中部支部長より，中部支部として地方地質誌，中部地方発刊の内容をもとに，英文の本を発行することを決めた．朝倉書店の了解は得ている．発行はTERRAPUBの予定．今後（のために？）もこのようなことはあると思うので，地質学会としてもある程度ルール作り（？）を考えていくべきではないか（考えてほしい）．口頭で理事会及び評議員会での検討要請があった．
→日本地質学会中部支部としての発行ならば，規定通りに企画書の提出を高橋委員長より要請する．

4．普及教育事業部会（部会長-高橋，中井）
地学教育委員会（委員長-阿部国広）
生涯教育委員会（委員長-柴　正博）
地質基準委員会（委員長-新妻信明）
地層名委員会（委員長-天野）
・7/22，地質年代区分問題について検討（地質科学関連学協会連合と合同）．

5．その他
支部長連絡会議（担当理事-天野）
地質災害委員会（担当理事-天野）
JABEE委員会（委員長-天野）
・秋に行われる研修会には，地質学会から2名が参加する予定．

技術者継続教育委員会（PDE）（委員長-公文）
地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合ニュース第1号発行に伴う協力要請について．
地質学会として連合ニュースを3800部買い上げ，雑誌8月号と共に会員に配布することとした．（会計委員会および理事会電子会議にて検討）
・2006年度合同大会の共催について了承し，プログラム委員2名の推薦要請があった．
行事委員から，2005年度から継続で七山太，新任の片山肇（いずれも産総研，本人了承済み）が推薦され，理事会はこれを承認した．
・中井担当理事から，7月18日の連合の地学教育委員会において，委員長に地質学会の阿部国広氏が選出され，高等学校教科「理科」新科目創設に関する提言を連合から文科省に提出すべく活動を進めることとなった．

【以下，評議員会の下の委員会】
各賞選考委員会（委員長-保柳康一）
名誉会員推薦委員会（委員長-加藤副会長）
科研費委員会（委員長-酒井治孝）
学術会議連絡委員会（委員長-井内美郎）
女性地球科学者の未来を考える委員会（委員長-田崎和江）
法人化実行委員会（委員長-齊藤会長）
法務委員会（担当理事-上砂）
倫理規定策定委員会（委員長-松本　良）
オンライン化委員会（委員長-鈴木徳行）
ビジョン委員会（倉本委員長）
・第1回「将来ビジョン委員会」を7月23日，24日に開催．報告をニュース誌に投稿予定．京都大会でも第3回委員会を開催するとともに，夜間小集会等で意見の収集を図りたい．

選挙管理委員会
・第1回選挙管理委員会を7月21日（木）に開催した．
互選により委員長は坂本正徳に決まった．
選挙スケジュールの確認とNews誌，HPへの公示原稿の作成準備を行った．
今後の委員会予定：11/2（立候補者の確認と広報原稿），12/20（開票）．

その他
・会長ならびに前・現事務局長の発案により，9月19日京都にて「名誉会員と有志による昼食会」を開催予定であることが報告された．
・来年の合同大会は5月14日から開催．決算-会計監査等のスケジュールより総会時期を逆算した結果，来年度の総会は6月10日以降に設定することとし，曜日は土曜で複数の会場を探すこととした．

○審議事項
1．評議員会議題について
議案内容として，各賞選考体系，学会賞等の選考委員選出，ビジョン委員会中間報告，リーフレット企画関連，来年度総会時期，年代論（古第三紀，第四紀関連），その他を整理する．

2．Geopark設立推進委員会設置について
加藤副会長より設立申請書の提出があり，要点は下記のとおりである．
・地質学会の中に委員会を設立する
・地質学会会員より委員を選出する
・他学会関係者についてはオブザーバー参加
・将来的には学術会議の委員会としたい
・人選を含む設立準備は加藤副会長に一任し，9月理事会に報告いただくこととした

3．広報体制をどうするか（高橋理事）
・体制としては広報委員長と新聞社等の科学記事担当者とのルート（メール等）を確保し，定期的に学会講演や情報などを流す
・学術大会での話題性の高いものの宣伝は，行事委員会と広報委員会が有機的に協調して広報活動を行う．大友広報委員長＋斎藤行事委員（京都大会担当）
・学会のマスコミ担当スポークスマンも将来的には必要であるが，事項ごとに専門性が異なるので，実際の体制については継続審議．
・一般向け広報をHPで充実させる（地震

学会の「なゐふる」参考）
・社会的に話題性の高いリーフレットの企画出版を推進する．

4．J-STAGEによる電子投稿・査読システムの利用について（編集委員会）
・編集委員会としては，一定の試行期間を経てのち導入することを検討した．理事会として，このことを了承した．
5．各賞の選出方法，特に日本地質学会賞，国際賞についての継続審議
・前回の評議員会の内容で進める．
・次回の評議員会に，学会賞，国際賞についての選考委員会の人選を依頼する

6．電子会議によるもの
1）構造地質研究会からの質問（質問代表者　竹下　徹）について，検討し回答した．
・理事会文書として確認した．これに対し，構造地質研究会からは構造地質部会への統合に前向きの返事が寄せられている．

2005年度　第13回理事会議事録

期　日：2005年9月5日（月）
14：00～17：00
場　所：地質学会事務所
出席者：齊藤会長，加藤副会長，木村副会長，渡部常務理事・天野副常務理事・上砂・狩野・高橋・中井・久田・宮下・向山，橋辺（事務局）
欠席理事：（議長委任）公文・大友，（欠席）倉本・徐・増田

報　告
1．運営財政部会（部会長-公文，倉本，向山，大友）
総務委員会（委員長-公文）
庶務関係（担当理事-公文）
・学術著作権協会と，地質学雑誌についてのPDFファイルでの複写利用サービスに関し，前回の理事会での決定により代理委任契約を結んだが，同協会より論集および講演要旨についても複写契約を結んでいるので，同様に代理委任契約を結んではどうか，という連絡があった．→論集・講演要旨集の複写についても代理委任契約を結ぶことを了承．
・電子図書館について
①地質学雑誌・ニュース誌を発行から3ヶ月をおいて無料一般公開とする．
②地質学論集については有料一般公開とする．
③利用条件提供の決定時期は，9月5日（理事会）とする．
・外部の賞公募など
1）科学技術振興機構より，平成17年度独創的シーズ展開事業　委託開発（優れた研究成果（新技術）を企業に委託して実用化を促進させる）第2回公募案内があった．9月中旬から10月初旬まで各地で説明会が行われる予定．
2）女性科学者に明るい未来をの会より「猿橋賞」の公募，11月30日締め切り→News誌8月号掲載
3）3）大学婦人協会より「守田科学研究奨励賞」の公募，11月30日締め切り→News誌8月号掲載
4）日本科学協会より，平成18年度笹川科学研究助成の公募，9月1日―10月14日→News誌8月号掲載
・学術会議ニュース8月号が送付され，学術会議の新体制に関する記事についてNews誌，HPで紹介．
・第19期環境工学研究連絡委員会地盤環境工学専門委員会報告「地盤環境工学の展開と連携に向けて」が送られてきた．地質学会においても認識すべき内容が多く含まれている．
・関連団体開催行事共催・後援等
1）海洋調査技術学会より，第17回研究成果発表会，10月13日―14日（海上保安庁，東京）の協賛依頼→了承した．
2）山口大学理学部より「山口大学理学部サイエンスワールド7th」11月6日（カリエンテ山口）の後援依頼→了承
・海洋研究開発機構より，海洋地球研究船「みらい」の内覧会招待状，会長代理で仲井理事が出席予定．

会員関係（担当理事-倉本）
1）入退会の承認
入会（正4）Islam MD.AMINUL　香月興太　石浜佐栄子　J.S.Dae
（正割8）村田和憲　松浦俊輔　木戸芳樹　金城文乃　吉田春香　三善孝之　有馬和宏　Domenico Gilamichael
（準4）京相健二　成毛志乃　石川友美　島村雄彦
退会　なし
2）8月末現在会員数
賛助34，名誉74，正4,599（内，院割268），学生42，合計4,749名
3）除籍予定者：102名（02年から05年までの会費滞納者）（名簿回覧）
関連学会連合（担当理事-天野）
・地質科学関連学協会連合
①Quaternary，Tertiary問題について，10月以降に具体的検討にはいる
②ニュースに状況報告を出す予定
・自然史学会連合
・地理関連学会連合

会計関係（担当理事-向山）
・一般会計報告（4－7月）

広報委員会（担当理事-大友）
ニュース誌編集小委員会（担当理事-大友）
インターネット運営小委員会（担当理事-大友）
・会員の情報交換を目的として，あらたに会員のページ内に掲示板を作成した．

2．学術研究部会（部会長-久田，徐）
行事委員会（久田委員長）
・京大会場費，約126万円
・事前登録者数，532名
・講演要旨の作成部数　1,250部予定
・次期大会開催校高知大学からの懇親会への出席者（近藤氏）．
・07年以降の開催地について，京都大会で東北支部からの返事（秋田での開催可能の諾否について）がある予定，08年は北海道開催で現在の支部方式は一巡となるのでその後について検討の必要がある．
・今後は参加登録もオンラインでできればより便利である．

専門部会連絡委員会
・9月18日（日），京都大学において連絡委員会を開催する．

国際交流委員会（徐委員長）

ヒマラヤ地質研究委員会（委員長-在田一則）
・在田委員長より委員会の解散届けが出された．これを了承した．
南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）
地質環境の長期安定性に関する委員会（委員長-高橋正樹）

3．編集出版部会（部会長-狩野，宮下，増田）
地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野　副委員長-久田，宮下＝企画担当）
・今月の編集状況（9月2現在）
本年度投稿論文数65編［論説51編（和文50・欧文1），総説4（和文4），短報7編（和文6・欧文1）ノート2（和文2）特別寄稿2］口絵13（和文9　欧文4）
投稿数昨年比－5
査読中　61編
・本年9月に任期満了となる委員が多数おり（約2/3），現在，留任・新任の問い合わせ中．
・特集号（多田）は，まもなく成立．特集号（関東）は順調にすすんでいる（半数受理済み）
・J-STAGE：オンライン編集の試行のために，学会側の基本的な情報を伝える予定．

The Island arc編集委員会（担当理事-増田，事務局　渡部・竹内圭史
・vol.15（2005年）から誌面変更予定
表紙変更（表表紙デザイン変更，裏表紙に日本地質学会のロゴ配置）

・編集上の変更（口絵写真新設，総説のページ上限の廃止，電子ファイル投稿，オンライン上でのauther surviceの提供）
・雑誌編集システムのWeb以降予定（Manuscript Central使用）
・編集委員会体制
事務局長１名は渡部から角替に９月の評議員会報告時点で交代
・編集出版状況は良好との報告
The Island arc連絡調整委員会（担当理事-増田，委員長-会田）
企画出版委員会（担当理事-高橋）

４．普及教育事業部会（部会長-高橋，中井）
・地球惑星連合の地学教育委員会（委員長＝阿部）から文科省に要望書（初等・中等教育での地学の役割を強調：地球科学を大幅に取り入れた総合理科的科目（教養理科：必修科目）の提案）を提出した．浜野代表，阿部委員長らが文科省に持参した．

地学教育委員会（委員長-阿部国広）
・組織強化が必要．機能強化策を考える必要あり．
・京都大会での公開シンポジウム（地質災害と教育：地質災害委員会との共催），小中校生地学教育研究発表会の開催．それぞれ他の数団体から後援を受けている．

生涯教育委員会（委員長-柴　正博）
地質基準委員会（委員長-新妻信明）
・地学用語集1000部重版．
地層名委員会（委員長-天野）
・地質科学学協会連合とともにQuaternary, Tertiary問題を検討中．

５．その他―１
支部長連絡会議（担当理事-天野）
地質災害委員会（担当理事-天野）
・現時点での京都大会の緊急展示の有無について委員会に確認中
・京都大会での公開シンポジウム（地質災害と教育）．
・今後の活動について，委員に問い合わせの予定（シンポジウム，スライド販売，調査チームの構成など）

JABEE委員会（委員長-天野）
・来年度，委員長交代予定
・審査員の養成が必要

技術者継続教育委員会（PDE）（委員長-公文）
地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・連合ニュース第１号が発行され，地質学雑誌８月号と共に会員に配布した．

【以下，評議員会の下の委員会】
各賞選考委員会（委員長-保柳康一）
名誉会員推薦委員会（委員長-加藤副会長）
科研費委員会（委員長-酒井治孝）
学術会議連絡委員会（委員長-井内美郎）
・地質学研連（井内美郎　委員）
９月２日研連を開催し10月より新体制となる学術会議について，次期への申し送り，新体制での分科会の設置等について検討する．地質学会においても旧研連の役割を担う文科会の設置等に付いて検討し，積極的に次期への働きかけをすることを要請したい．
・地質科学総合研究連絡委員会（環境専門学委員会）（千木良雅弘　委員長）
今期の活動報告および検討結果

女性地球科学者の未来を考える委員会（委員長-田崎和江）
法人化実行委員会（委員長-齊藤会長）
法務委員会（担当理事：委員長-上砂）
倫理規定策定委員会（委員長-松本　良）

オンライン化委員会（委員長-鈴木徳行）
・総会・年会参加申し込みのオンライン化検討をオンライン化委員会に依頼する．

ビジョン委員会（倉本委員長）
選挙管理委員会
・News誌８月号に公示前の案内を掲載し，９月号に公示を掲載する．
・選挙スケジュール

立候補受付	10月１日～10月31日
投票	11月15日～12月15日
開票	12月20日

＜総会＞
06年６月18日（日）
→変更　06年５月14日（日）幕張メッセ

○審議事項
１．次期学術会議会員への申し送り，要望等について
・新学術会議（新会員）へ学会としての要望・期待を提出する用意をする．
京都での評議員会までに会長が原案を作成．
２．総会開催までの手続き，スケジュール
１）総会開催日程：５月14日（日，地球惑星合同大会の初日）
・７月の理事会において６月開催を決めたが，その後，連合等の関係で再考の必要が生じ，種々検討，調整の結果５月開催に変更した．
・2007年度以降の合同大会日程については，地質学会として無理の無い日程となるよう，あらかじめ要望をだす．「５月20日以降の日曜日を含む日」を条件として，久田理事（連絡委員）から申し入れをする．
２）総会前の評議員会開催日程：５月７日（日）
３）次年度事業計画案
・理事会の下の各部会は，事業計画を提出する（締め切り：11月末）
部会長は，所属委員会等の意見を聴取するなどして部会の事業案を作成する
部会に付帯せず，理事長・理事会・評議員会等に直属する事業については，正副常務理事が担当する
・12月の評議員会で報告，検討の上，これを原則承認いただき，予算案作成に入る
・修正等の必要がある場合は，最終案は２月までに策定して，評議員に郵送等で報告
４）次年度予算案：事業計画案に基づき３月中に会計委員会が作成
・評議員会　報告（４月）：郵送，メールなど
・評議員会　承認（５月７日）
５）今年度事業報告，決算
・概算報告を評議員会に郵送・メール等で報告する（４月中）
・評議員会　決算報告（５月７日）
６）会計監査
・評議員会（5/7）と総会の間に実施
７）各賞の決定までのスケジュール
・学会賞，国際賞
選考委員会（ワーキンググループ）の新設と委員選出：05/9評議員会
公募：11月～１月（10月号News誌）または，12月～２月（11月号News誌），この間，公募経過をHP等で随時知らせる．
選考：２月～３月→５月評議員会で決定
・論文賞・研究奨励賞・小藤賞ほか
対象論文：これまで12月掲載分までとしていたのを，９月掲載までとする．→各賞選考規約の改正案を評議員会に提出
公募：11月～１月（正月明け？）まで（10月号News誌広報），
選考：１月から４月初旬まで
８）評議員会開催期日の調整，確認
・５月７日　評議員会開催　決算・予算案最終報告，承認
３．「新人賞（仮称）」の新設
・賞の内容
40歳未満の地質学会会員
地質学雑誌，Island Arc以外の学術出版物に掲載の論文等を対象とする
・運営細則第39条の改正，および各賞選考に関する規約を改正する．
４．評議員会追加議題の有無について
・総会開催日にかかわる件を追加する
５．その他
１）ジオパーク委員会暫定委員の承認
加藤副会長（委員長），佃　栄吉，天野一男，高橋正樹，田崎和江，植村和彦，佐々木靖人，大矢　暁，岩松　暉，足立守；オブザーバー：桂（文化庁記念物課），黒田（環境省自然環境計画課長）
２）名誉会員昼食会，理事の出欠確認（９月19日昼）
・斎藤会長，（加藤副会長），高橋理事，天野理事，上砂理事

2005年度　第14回理事会議事録

期　日：2005年９月17日（土）
12：30～13：30
場　所：京都大学理学部６号館　203号室
出席者：齊藤会長，加藤副会長，木村副会長，渡部常務理事・天野副常務理事・上砂・大友・公文・徐・高橋・中井・久田・増田・宮下・向山，石渡評議員会議長，三宅評議員会副議長，橋辺（事務局）
欠席理事：（議長委任）：狩野・倉本

審議事項

１．「地質学史資料調査委員会」から出された委員会名称の変更について
　他団体に酷似の名称があることが判明し，重複，混同を避ける意味でも委員会名を「地質学史アーカイブス委員会」に変更したいとの申請があり，これを了承した．

２．東レ科学技術研究助成への応募申請について，締め切り10月７日
　植木岳雪会員（産総研）から，所属機関の手続きが間に合えば，応募申請したいとの希望が出された．研究内容を検討し，間に合わない場合には申請をしないということも含めて，これを了承した．

３．評議員会議事進行等確認
・とくに各賞選考体系について提案内容の確認をした．関連する評議事項の順番を変更することとした．

４．その他
　特になし．

2005年度　第５回定例評議員会議事録

日本地質学会　評議員会議長　石渡　明
副議長　三宅康幸
日　時：2005年９月17日（土）
14：00～17：55
場　所：京都大学　理学部６号館　203号室
出席者：齊藤靖二会長　加藤碩一副会長　木村　学副会長
（評議員25名）＜1.5年任期＞足立　守　石渡　明　梅田美由紀　酒井治孝　榊原正幸　佐々木和彦　嶋本利彦　高橋雅紀　新井田清信　松岡　篤　三次徳二　八尾　昭
<2.5年任期>　阿部国広　磯崎行雄　板谷徹丸　国安　稔　柴　正博　田近　淳　新妻信明　三宅康幸　保柳康一
（理事名）渡部芳夫常務理事　天野一男副常務理事　上砂正一　大友幸子　公文富士夫　徐　垣　高橋正樹　中井睦美　久田健一郎　宮下純夫　向山　栄（事務局）橋辺菊恵
欠席　評議員（委任状15名）：会田信行　赤羽久忠　荒戸裕之　安間　恵　加藤　進　小嶋　智　紺谷吉弘　滝田良基　田崎和江　巽　好幸　納谷友規　楡井　久　丸山茂徳　矢島道子　山路　敦脇田浩二
欠席者　評議員（委任状なし３名）：鳥海光弘　永広昌之　横山俊治
理事（名）：倉本真一　狩野謙一　増田富士雄
オブザーバー　平島崇男（近畿支部長）

＊議事に先立ち，田近　淳・新井田清信の両評議員を書記として選出した．
成立員数（21/40）に対し，出席21名，委任状16名で，評議員会は成立．

報告事項

Ⅰ　理事会報告

１　運営財政部会
１）総務委員会
庶務関係（担当理事-公文）
公文理事より報告．
・関連団体開催行事共催・後援等を了承した．
　１）ゼオライト学会：第21回ゼオライト研究発表会（2005/11/21-22），共催
　２）計測自動制御学会：第31回リモートセンシングシンポジウム（2005/10/31-11/），協賛
　３）日本科学技術振興財団：青少年のための科学の祭典2005（2005/8），後援
　４）海洋調査技術学会：第17回研究成果発表会（10月13日―14日），協賛
　５）山口大学理学部：「山口大学理学部サイエンスワールド7th」（11月６日），後援
・学術著作権協会と，地質学雑誌，論集および講演要旨についてのPDFファイルでの複写利用サ-ビスの代理委任契約を結んだ．
　著作権の使用料：基本料金（10ｐまで，送料込み）150円，追加料金100円（10ｐごと）
・国立情報学研究所，電子図書館（NII）の新しい閲覧方法に関連して
　地質学雑誌・ニュース誌を発行から３ヶ月をおいて無料一般公開とする．
　地質学論集については有料一般公開とする．

JABEE委員会（委員長-天野）
特に報告事項なし．

技術者継続教育委員会（委員長-担当理事-公文）
特に報告事項なし．

関連学会連合（担当理事-天野）
自然史学会連合（運営委員-森田利仁）
報告事項なし．
地質科学関連学協会連合
・７月22日，地質年代区分問題について検討（地層名委員会と合同）．
地理学関連学会連合
報告事項なし．

会員関係（担当理事-倉本）
次の入会・退会を承認した．
①入会承認（５月～８月）
正会員［29名］：宮下耕一，栗山健弘，橋本智雄，芝﨑文一郎，赤松　良，石山達也，内田昌男，宇納貞男，勝木厚成，菅　浩伸，河野俊夫，近藤　恵，須甲武志，芹沢真澄，橘　徹，中村恭之，西森　拓，桧山知代，福井喬士，Bros Regis，増留由起子，三角和弘，三谷典子，三宅　荘，渡辺　聡，Islam MD.AMINUL，香月興太，石浜佐栄子，J.S.Dae
正（院生割引）［84名］：中尾武司，生野静香，齊藤友比古，古堅千絵，土橋広宣，松永英里，平田正礼，三輪成徳，山﨑新太郎，忍海辺智子，村田和憲，松浦俊輔，木戸芳樹，金城文乃，吉田春香，三善孝之，有馬和宏，Domenico Gilamichael，相澤武宏，秋山美奈子，足立達朗，石井俊輔，岩井隆昌，上田匡将，臼杵宣保，Usubalieva Jarkynai，江川真史，尾芦裕子，大谷美春，大塚洋之，岡田悦郎，岡野和貴，小田島庸浩，上嶋優子，亀井　陽，川村紀子，菊池伸輔，北川陽一郎，Kim・Woo-Seok，久保雄大，栗原　慧，Gurung Jaya Kumar，小安孝幸，昆　慶明，近藤はるか，坂田聖二，佐藤雄大，佐野広記，嶋川未来子，清水直紀，下総麻衣子，砂川幸則，高田里美，田中昭好，田中さつき，田中慎康，田中美那，谷口綾，長久保恵美，永田紘樹，中山　俊，西上原航，西山雄大，荷福　洸，長谷川仁子，早川直樹，番場　厚，蛭田明宏，帆足雅通，松浦広学，松本有希，道口陽子，南澤智美，宮本新平，向井理史，安永　雅，柳田祐樹，山口弘幸，山田　朗，山田国見，吉田健司，和田佑子，和田幸永，渡部哲子
準会員［13名］：一田昌宏，京相健二　成毛志乃　石川友美　島村雄彦，芦田貴史，江藤稚佳子，髙下将一郎，富山雄太，中原知明，森井一誠，横溝佳侑，渡部　遼
②退会承認
賛助会員［１社］：大成基礎設計㈱
正会員［11名］：西奈保子，森山哲太郎，林美明子，宮崎政三，朝倉清弐，佐々木直哉，古財佑介，高柳朝一，小林　浩，阿部　求，栗原　新
③逝去
正会員［１名］：宮城一男（５月31日）
逝去された宮城会員に対し評議員会出席者全員による黙祷が行われた．
④除籍予定者：101名（02年から05年までの会費滞納者）（名簿回覧）

⑤会員の動静（2005年８月31日現在）

	賛助会員	名誉会員	正会員(内 院生割引)	学生会員	合計
2005. 4.30	35	74	4512(190)	31	4652
2005. 8.31	34	74	4599(268)	42	4749
増・減	－1	0	＋87(＋78)	＋11	＋97

会計関係（会計委員長-佐々木和彦，担当理事-向山）向山理事より一般会計報告があった．

・一般会計報告（4－7月）
学会賞を受賞した嶋本会員から日本地質学会に対して寄付があったことが紹介された．

2）広報委員会（担当理事-大友）大友理事より報告．

News誌編集小委員会（担当理事，委員長-大友）

・９月９日，実行委員会と広報委員会は京都大会についてのプレスリリースをおこなった．
記者クラブへの投げ込み，メールで各社に送信．News表紙写真の投稿が少なく，投稿を期待する．

インターネット運営小委員会（委員長-榎並正樹，担当理事-大友）

・会員のページのなかに“会員の伝言板”を設置した．掲載要領は下記のとおり．
(1) 日本地質学会ホームページの掲示板では地質に関するアナウンスを募集，(2) 掲載希望の方はメールにてjournal@geosociety.jpまで投稿，(3) インターネット委員会が，ふさわしくないと判断したものは掲載されない場合がある．
現在“地質学雑誌のバックナンバーをおゆずりします”を１件掲載中．
・英文ホームページを作成し，９月15日から公開した．今後改良の余地あり．

2　学術研究部会

1）行事委員会（担当理事-久田）

久田理事より報告．

・京都大会概要
発表総数668件：シンポジウム69件，一般セッション口頭335件，ポスター264件
委員会において校閲の結果，異議申し立てに係わる講演はなかった．

事前登録者数，532名（9/5　現在）

講演要旨の作成部数　1,250部
今後は参加登録もオンラインでできればより便利である．

・京都大会直前準備状況（増田理事）
・2007年以降の開催地
東北支部（2007年，支部に開催を打診中）→北海道支部（2008年）→西日本支部（2009年）で，現方式の一巡となる．

2）専門部会連絡委員会（担当理事-天野）

天野理事より報告．

・９月18日（日），京都大会において初めて連絡委員会を開催．部会の要望を聞くとともに，今後の展望を議論する．

3）国際交流委員会（担当理事-徐，脇田浩二委員）

徐理事より報告．

・IYPE国際地球惑星年について
今春，ユネスコ理事会は国際惑星地球年に関する議題を採択し，秋のユネスコ及び国連総会に正式提案される．現時点でのユネスコ総会における登録議題は「Proclamation of 2007 as a United Nations international year of Planet Earth」，2008年を国連による国際年，その前後１年を加えた2007～2009年を活動３ヶ年として検討中．地惑連合など他学会・組織とも協力しながら実施の予定．

4）研究委員会

渡部常務理事より報告．

(1) ヒマラヤ地質研究委員会（委員長-在田一則）
・委員会の解散（2005.9.1）を承認した．
(2) 南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）

以下のとおり文書で報告された．

・第46次南極観測隊に参加した本吉洋一（極地研），M. Satish-Kumar（静岡大），加々島慎一（山形大），隅田祥光（九州大；現在，極地研），廣井美邦（千葉大）は，2004年12月中旬から2005年２月中旬まで，東南極大陸のリュツォ・ホルム岩体および西エンダビーランドの調査に従事し，３月下旬に無事帰国した．今シーズンは好天にも恵まれ，ほぼ予定どおりの調査ができた．
・今年出発する第47次隊には，白石和行（極地研）が隊長として参加する．ただし地表踏査は計画されておらず，かわってドイツと共同で航空機を用いた観測が行われる予定．
・第48次（2006年）～第51次（2009年）の第VII期計画の策定が行われている．地質部門としては，東クイーンモードランドを中心とした調査計画を立案中である．
(3) 地質環境の長期安定性に関する研究委員会（委員長-高橋正樹）
特になし．

3　編集出版部会

宮下理事から報告．

1）地質学雑誌編集委員会（担当理事，編集委員長　狩野，副委員長　久田，宮下：企画部会担当）

・編集状況（９月２日現在）
８月号まで刊行済み，９月号近日刊行予定．

本年度投稿論文数65編［論説51編（和文50・欧文１），総説４（和文４），短報７編（和文６・欧文１）ノート２（和文２）特別寄稿２］口絵13（和文９　欧文４）

投稿数昨年比　－５，査読中　61編

・特集号（多田）は，まもなく成立．特集号（関東）は順調にすすんでいる．
・J-STAGEによる電子投稿，査読システムを試行する予定で準備中．
・投稿論文数は漸減傾向にある
・この現状について査読等の問題や改善策の質疑があった．

2）企画出版委員会（担当理事-高橋）

3）The Island Arc連絡調整委員会（委員長-会田信行）

・今年度の科研費500万円が交付された．
・年度途中での雑誌名変更にともなう変更の手続きが必要．

4）The Island Arc　編集委員会（事務局渡部芳夫・竹内圭史）渡部常務理事より報告．

・vol.15（2005年）から誌面変更予定
誌名変更（The Island Arc→Island Arc）および表紙変更（表表紙デザイン変更，裏表紙に日本地質学会のロゴ配置）
・編集上の変更（口絵写真新設，総説のページ上限の廃止，電子ファイル投稿，オンライン上でのauthor serviceの提供）
・雑誌編集システムのWeb移行予定（Manuscript Central使用）
・編集委員会体制
事務局長１名は渡部から角替に９月の評議員会報告時点で交代
・編集出版状況は良好
・04年度のIF値は0.843（03年度0.641）にあがった．【本誌７号28ページ参照】

4　普及教育事業部会

1）地学教育委員会（委員長　阿部国広，担当理事　中井）

阿部委員長より報告．

・京都大会関連行事
理科教師対象見学旅行（８月28日）「巨椋池干拓地と南山城天井川を訪ねて」を実施した．公開シンポジウム（９月19日）「自然災害から子供達を守る」：地質災害委員会と共催
第３回小中高校生徒研究発表会（９月18日）：参加　18校，発表　28件
・各教育委員会の後援をえて，教員が動きやすい条件が整えられた．生徒研究発表会の表彰制度について今後検討したい．・学校科目「地学」関連学会連絡協議会報告（委員　佐瀬和義）
委員交代（→中井理事に）．
・地球惑星科学連合「地学教育委員会」（委員　阿部国広，担当理事-中井）
７月29日，地球惑星科学連合代表名で，高等学校「理科」における必修科目創設に関する提言を中央教育審議会に提出した．この科目「教養理科（仮称）」は全ての高校生が地球人として必要な科学リテラシーを学べることを目的するものであ

る．内容については中教審の議事録に記述される予定である．
各評議員から，この提言を高く評価する意見が出された．また，教科書作成など地質学会でバックアップできることを準備すべきだとの意見があった．

2）生涯教育委員会（委員長　柴　正博，担当理事　高橋）
柴委員長より報告．
・京都大会でのシンポジウム「社会に広がる地質学へ：地質学の普及と学会の社会的貢献」を企画した．このシンポジウムをうけて，学会としてどのような普及活動を展開できるかを今後検討したい．
・科学系博物館に特化したポータルサイト「サイエンスミュージアムネット」（S-Net）
http://science-net.kahaku.go.jp/が８月１日より稼動したので，これについてNews誌に投稿し，多くの博物館が登録して利用されることを普及したい．

3）地質基準委員会（委員長-新妻信明）
新妻委員長より報告．
・用語辞典については本年中にCD版を出す予定．
・新メンバーをいれた「第２次地質基準策定委員会」で新しい地質の見方について検討中．
4）地層名委員会（委員長-天野一男）
・Quaternary，Tertiary問題について，10月以降に具体的検討にはいる．

5　その他（理事会関係の委員会等の報告）
支部長連絡会議（担当理事-天野）
各支部からの報告を天野理事が説明．
・北海道支部：６月25日総会，例会を開催支部長，役員の交代をおこなった（新支部長-宮坂省吾）．６月26日地質巡検「札幌の地質を見直そう」，11月３日「アスベスト問題に関する一般市民向け講演会」開催の準備中．
・中部支部：活動報告　６月11日　支部総会，シンポジウム「フォッサマグナと中部山岳地
帯の形成と発展」を開催，６月12日　地質巡検「北部フォッサ～飛騨山脈」
・西日本支部：６月18日　支部例会，臨時総会開催，支部規約の全面改正，会費徴収の廃止
・関東支部：６月11日地震関係シンポジウム，10月16日国立科博の協力でシンポジウム「地球から読み取る未来－かけがえのない地質遺産からみえるもの」を開催予定．

地質災害委員会（担当理事-天野）
天野理事より報告．
・６月11日，関東支部との共催で地震関係の講演会およびパネルディスカッションを開催．
・９月19日，地学教育委員会と共催：公開シンポジウム「子どもたちを災害から守る」．

日本地球惑星科学連合（久田連絡委員）
久田連絡委員より報告．
・５月25日「日本地球惑星科学連合（Japan Geoscience Union）」が発足．現在25学会が加盟．
評議会議長　廣田　勇，評議員　加盟学協会会長ほか
運営会議議長　浜野洋三，副議長　木村学
・連合ニュース第１号発行，学会として3900部買い上げ，雑誌８月号と共に会員に配布．
・2006年度合同大会の共催を了承，プログラム委員：継続で七山　太，新任の片山肇（いずれも産総研）を推薦．
・地質学会地学教育委員会阿部国広委員長が連合の地学教育検討委員会委員長に選出された．
・木村副会長から，名称修正の経過やJPGUとAOGSとの関係などの補足説明があり，若干の質疑が行なわれた．また，既存学会と連合の「棲み分け」問題や連合の国際組織対応と学術会議の対応関係との問題について指摘があった．

Ⅱ　各種委員会報告（評議員会関係）
1　各賞選考委員会（委員長-保柳康一）
・保柳委員長より今年度各賞選考の経過と結果について報告があった．選考スケジュールが時間的に厳しいので，体制を含めて検討してほしい旨の要望があった．
【本誌７号13－15ページ参照】

2　名誉会員推薦委員会（担当理事-委員長-加藤副会長）
とくになし

3　科学研究費委員会（委員長-酒井治孝，担当理事-公文）
・酒井委員長より，日本学術会議の組織・運営の改変と科学研究費補助金審査体制の変更に伴う問題点とこれに対する当面の委員会の任務に関する報告があった．

4　学術会議連絡委員会（担当　井内）
・齊藤会長より，学術会議の改組とそれに関する問題点の説明があった．分野別委員会では古生物学が応用生物学委員会に属する，地球化学が化学委員会に属するなど，問題点が多い．10月１日から新体制になるが，とりあえず現在の各研連から提言や要望を提出することにしている．
1）地質学研連（井内委員）
・第19期５回，６回議事録，19期から20期への申し送り事項
2）鉱物学研連・鉱床学専門委員会（赤井委員）
・９月15日に研連開催
3）地球化学・宇宙化学研連
4）海洋科学研連（徐研連委員）
徐委員より報告．
・このままでは学術会議から海洋学の名前が消える．研連がなくなり調査船委員会がどうなるのかなど問題点が多い．これに関して海洋研究所でシンポジウムを計画している．
5）国際学術協力事業研連
6）古生物学研連（八尾研連委員）
八尾委員より報告．
・第19期第６回議事次第
・古生物学を地球惑星科学領域とする要望と４項目の課題について学術会議事務局に提出．
7）地質科学総合研連
環境地質学専門委員会（田崎委員）
・今期の活動報告および検討結果
第四紀学専門委員会（齋藤文紀委員）
・第19期６回，７回議事録
8）理学振興研究連絡委員会報告
9）環境理学研究連絡委員会（増田委員）
10）IGCP専門委員会（田崎委員）

5　女性地球科学者の未来を考える委員会（委員長-田崎和江）
・大友理事より京都大会での保育室の準備について報告があった．

6　法人化実行委員会（委員長-齊藤靖二）
・齊藤委員長より，順番待ちの現状が報告された．
募金委員会報告（委員長-加藤碩一）加藤委員長から報告．
・４月以降の寄付金額　12万円，基本財産総額18,136,554　＋120,000＝18,256,554円

7　法務委員会・倫理規定策定委員会（委員長・担当理事-上砂）
上砂理事より報告．
・「学術大会講演申し込みに関する意義申し立て処理機構規則」の作成
・９月14日委員会開催，総会委任状に関する件，著作物自己利用に関する件の検討．次の評議員会には提案予定．

8　オンライン化委員会（鈴木徳行　委員長）
渡部常務理事より代理報告．
・2005年度オンライン講演申込み，要旨投稿，参加申込みオンライン化
・次年度年会参加申し込みのオンライン化に向けた検討を理事会から要請する

9　ビジョン委員会（倉本委員長）
向山理事より代理報告．
第１回「将来ビジョン委員会」を７月23日，24日に開催．京都で第２回委員会（9/19），夜間小集会（9/20）を開催．年内に最終報告

を予定している．

10. 地質学史資料調査委員会
・地質学史資料調査委員会から地質学史アーカイブス委員会への名称変更．

Ⅲ　選挙管理委員会（委員長-坂本正徳）
渡部常務理事より代理報告．
・2005年度　選挙スケジュール，News誌８月号に公示前の案内，９月号に公示を掲載．
立候補受付　10月１日～10月31日，投票11月15日～12月15日，開票　12月20日

Ⅳ　その他
環境地質研究部会報告
上砂理事より代理報告．
・地質汚染－医療地質－社会地質学会から第15回環境地質シンポの共催要請があり，部会として共催することとした。

Ⅴ　理事会審議事項（主なもの）報告
渡部常務理事より報告
１．法務委員会作成「学術大会講演申し込みに関する意義申し立て処理機構規則」原案どおり了承．
２．各賞について
１）地質学会賞，国際賞選考に関する推薦委員会（WG）の設置について
２）日本地質学会新人賞（仮称）の新設について
３）上記に関連し，運営細則および各賞選考規約の改正
３．総会日程の決定および総会開催日にかかわる件
・2006年総会開催日を５月14日（日，地球惑星合同大会の初日）とした．総会の日程に合わせ，審議事項等の決定にいたる手続き，スケジュール等の検討をした．
４．ジオパーク設立推進委員会を地質学会内に設置することを了承し，暫定委員を選出した．
５．地質学会の広報体制について検討．
社会性のあるリーフレットの作成と宣伝，プレスリリース（年会時や日常的）など．
６．ヒマラヤ地質研究委員会（委員長-在田一則）から出された解散届けを了承．

＜総会＞
2006年５月14日（日）幕張メッセ

評議事項
１．総会日程の決定および総会開催日にかかわる件
渡部常務理事より，2006年総会を合同大会初日（５月14日）とした場合の事務処理・評議員会の日程について説明があった．2006年の合同大会は今年より一ヶ月繰り上がり，事務処理や監査，各賞選考などがすべて厳しいスケジュールとなるため，総会の１週間前に評議員会を開催したい．
これに対して，総会１週間前の評議員会というのは現実的ではないという意見があり，総会直前に重大な変更等が生じないように，メール等で事前に十分に説明・意見交換するという前提で，５月７日（日）と提案された評議員会の日程を５月13日（土）へ変更することにした．

２．各賞選考体系の変更について
宮下理事より以下の趣旨説明があった．
(1) 日本地質学会員の若手には，国際的評価の高い雑誌に投稿・活躍している人材が増えている．そういった若手会員を奨励するために日本地質学会新人賞（仮称）をあらたに創設する．また，地質学会賞・国際賞の選考のために，各賞選考委員会のもとに諮問委員会を設置する．
(2) これに伴って「運営細則」第11章第39条の２（10）に新人賞（仮称）の規定を設ける．また同（5）の研究奨励賞の年齢基準を35才以下から35才未満とする．また「日本地質学会各賞選考に関する規約」の関連部分を変更する．
これに対して，地質学雑誌・The Island Arcという条件を奨励賞からはずして一元化すべき，新人賞の基準がはっきりしない，国際誌の論文が地質学雑誌・The Island Arcのそれより格上の論文ということになる，などの意見がだされた．また，新人賞の選考基準から「論文」をはずして「優秀な業績」とし，学会賞の若手版という位置付けにすべき，という意見（修正案）が出された．諮問委員会については，他に選考委員会を２つにすべきという意見もあった．時間の制約もあり，この件については「新人賞（仮称）」を新設するという方向だけを確認し，その他の詳細については改めて担当理事が検討し，メール等で連絡・議論することとした．なお，公募の手続きは従来どおりである．

３．リーフレット作成企画案について
高橋正樹理事より説明．東京直下型地震など，いくつかの案が示された．

４．年代区分（古第三紀，第四紀関連）についての検討
天野副常務理事より，年代区分検討委員会の経緯と今後の予定について説明があり，とくに今後，Tertiaryが消滅した経緯，日本における第四紀の定義，PaleogeneとNeogeneの訳語の問題などについて，各学協会の意見などを集約して，年内に提案書を作成するとの報告があった．時間切れで議論できなかったが，意見があれば天野副常務理事までメールを送付することとした．

５．ビジョン委員会中間報告についての検討
次回へ先送りとした．

６．その他
特になし

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
No. 38以前の論集：院生・学生は4割引，正会員は2割引　No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第21号　続・日本列島の基盤．加納　博ほか編，331pp., 1982年4月刊，会員頒価2,400円，〒340円
第26号　白亜系の国際対比―現状と問題．平野弘道編，172pp., 1985年3月刊，会員頒価2,000円，〒290円
第30号　日本の第四紀層の層序区分とその国際対比．市原　実ほか編，221pp., 1988年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第33号　西南日本内帯高圧変成帯とテクトニクス．西村祐二郎ほか編，357pp., 1989年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第34号　堆積盆地と褶曲構造―形成機構とその実験的研究―．三梨　ほか編，209pp., 1990年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第37号　古日本海東縁の新第三系―層序・古地理・古環境．小林巌雄ほか編，326pp., 1992年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第38号　変動帯における砕岩類の組成と起源―日本列島を例として―．君波和雄ほか編，401pp., 1992年3月刊，会員頒価3,500円，〒340円
第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円
第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円
第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円
第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~（売り切れました）
第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒290円
第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia （IGCP350） Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円
第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．
第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．（入荷しました）
第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~（売り切れました）
第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第57号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．
第58号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか
第109年学術大会講演要旨集（2002年9月刊，新潟）会員頒価3,500円，〒500円
第110年学術大会講演要旨集（2003年9月刊，静岡）会員頒価3,500円，〒500円
第110年見学旅行案内書（2003年9月刊，静岡）　会員頒価1,500円，〒350円（静岡大会セット購入の場合送料実費請求）
第111年学術大会講演要旨集（2004年9月刊，千葉）会員頒価3,500円，〒500円
第111年見学旅行案内書（2004年9月刊，千葉）　会員頒価2,000円，〒350円（千葉大会セット購入の場合送料実費請求）
第112年見学旅行案内書（2005年9月刊，京都）　会員頒価2,000円，〒350円

クリアファイル：学会オリジナル．A4版透明タイプ　会員頒価　1枚100円
フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

取扱い地質図一覧（委託販売）　05/8月現在

表示価格は税込みです．会員には表示価格から消費税分を割り引いて販売いたします（代金後払い）．
ご注文はFAXまたはe-mailで地質学会事務局へお申し込み下さい．
FAX　03-5823-1156，e-mail　main@geosociety.jp

100万分の1日本地質図　第3版　4枚組　¥6, 300
100万分の1日本重力図（ブーゲー異常）　¥3, 885
地球化学アトラス　－北関東－　¥5, 565
200万分の1地質編集図
　コンピュータ編集による日本地質図（付記付き）¥2, 310
　日本の磁気図（説付き）　¥2, 520
300万分の1 日本列島地温勾配図　¥1, 680
数値地質図
　200万分の1東・東南アジアの数値地質図（説付き）　¥2, 625
　20万分の1数値地質図幅集
　　北海道北部　¥1, 050，北海道南部　¥1, 050　東北¥3, 045
　　関東甲信越及び伊豆小笠原諸島　¥2, 835
　日本の新生代火山岩の分布と産状　CD-ROM版　¥1, 260
　東・東南アジア都市域の地球科学データ CD-ROM版　¥1, 155
　日本地質図索引図（第1集～第8集　CD-ROM版1963～1999）　¥945
　北海道地質ガイドマップ　CD-ROM版　¥945
　東・東南アジア都市域の地球科学データ （第２版）CD-ROM版　¥1, 155
　富士火山地質図CD-ROM版　¥1, 155
　日本重力図CD-ROM版（説付き）　¥945
　400万分の1東アジア磁気異常図 CD-ROM版（第２版）　¥945
　400万分の1韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集 CD-ROM版（第２版）　¥1, 050
　日本周辺海域音波探査データベース　CD-ROM版　¥945
　東北・九州地熱資源図CD-ROM版　¥945
特殊地質図
　東京湾とその周辺の地質　¥6, 195
　秋田地熱資源図　¥5, 040
　諏訪湖湖底堆積状況図（1：1.35万）　¥1, 575
　東海沖海底音響画像図（1：40万）　¥735
　札幌－岩内地域火山・鉱化熱水系分布図　¥3, 780
　札幌地熱資源図　¥4, 620
　青森地熱資源図　¥5, 145
50万分の1鉱物資源図
　北海道（東部, 西部）¥7, 140, 東北　¥4, 305,
　関東甲信越　¥4, 515, 中部近畿　¥4, 515,
50万分の1地質図幅
　旭　川（第2版）　¥2, 100
50万分の1活構造図
　東京（第2版）　¥3, 255, *京都（第2版）　¥3, 675
2.5万分の1地質構造図
　阿寺断層系ストリップマップ（説付き）¥2, 940
　中央構造線四国地域活断層ストリップマップ（説付き）¥4, 515
　中央構造線近畿地域活断層ストリップマップ　¥2, 415
　柳ヶ瀬－養老断層系ストリップマップ（1：10万）　¥2, 520
　糸魚川－静岡構造線活断層系ストリップマップ（1：10万）¥2, 520
　兵庫県南部地震に伴う地震断層ストリップマップ
　野島・小倉及び灘川地震断層－（1：1万, 説付き）¥3, 570
　花折断層ストリップマップ　¥2, 835
海洋地質図
　鳥取沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 990
　鳥取沖表層堆積図（1：23万, 説付き）¥3, 255
　室戸沖表層堆積図（1：20万, 説付き）¥2, 835
　経ヶ崎沖表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 045
　下北半島沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 360
　経ヶ崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）¥3, 570
　粟島周辺海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 460
　佐渡島北方表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 675
　佐渡島北方海底地質図（1：20万, 説付き）¥4, 305
　豊後水道南方海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 040
　豊後水道南方表層堆積図（1：20万, 説付き）¥3, 885
　駿河湾海底地質図（1：20万, 説付き）¥5, 670
　ゲンタツ瀬海底地質図（1：20万, 説付き）¥4, 095
　塩屋崎沖海底地質図（1：20万, 説付き）　¥5, 250
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 885
　ゲンタツ瀬表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 780
　日向灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
　塩屋埼沖海底地質図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
　響灘表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
　能登半島西方表層堆積図（1：20万, 説付き）　¥3, 570
海外地球科学図　（英文）
　東・東南アジア熱流量図（1：500万）　¥2, 310
　中国モウス沙莫よび周辺地域の水文環境図（1：50万, 説付き）¥7, 035
　韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集　¥1, 365
　東アジア地質災害図　¥3, 675
重力図　（ブーゲー異常）1：20万
　青森地域　¥2, 100, 秋田地域　¥1, 470,
　山形地域　¥1, 400, 北上地域　¥2, 415,
　渡島地域　¥1, 700, 苫小牧地域　¥1, 575,
　札幌地域　¥1, 700, 帯広地域　¥1, 575,
　旭川地域　¥1, 500, 北見地域　¥1, 575,
　根室地域（2枚組）¥2, 520, 天北地域　¥1, 890,
　名寄地域　¥1, 890, 大分地域　¥1, 785
　福岡地域　¥2, 415
空中磁気図
　尖閣諸島海域　¥2, 100
　伊豆大島地域（1：5万）伊東周辺地域（1：2.5万）¥1, 050
　雲仙地域（1：5万）　¥1, 050
　西表島周辺地域（1：10万）　¥1, 050
　由利原地域高分解能空中磁気異常図（1：5万）　¥2, 730
火山地質図
　桜島火山（1：2.5万）¥1, 260, 有珠火山（1：2.5万）　¥1, 155, 岩手火山　¥2, 730
　草津白根火山（1：2.5万）¥1, 575, 阿蘇火山（1：5万）　¥1, 155, 三宅島　¥1, 890
　北海道駒ヶ岳火山（1：5万）¥1, 785, 浅間火山（1：5万）　¥1, 785
　青ヶ島火山および伊豆諸島南方海底火山（1：1万, 1：65万）¥2, 625
　雲仙火山（1：2.5万）　¥1, 155, 那須火山（1：3万）　¥2, 205
　伊豆大島火山（1：2.5万）　¥1, 785, 霧島火山（1：5万）　¥1, 575
日本炭田図
　天草炭田地質図　¥7, 140
日本油田・ガス田図
　新潟県中部地域　¥3, 885
20万分の1地質図幅
　相川及び長岡の一部　¥1, 785, 青森　¥2, 310,
　飯田（第2版）¥2, 415, 厳原　¥1, 360, 岩内　¥2, 415,
　宇都宮　¥2, 730, 浦河　¥2, 625, 宇和島　¥2, 100, 岡山及び丸亀　¥2, 625,
　鹿児島　¥2, 520, 金沢　¥2, 730, 唐津（第2版）　¥2, 205, 岐阜　¥2, 730,
　木本　¥1, 365, 熊本　¥2, 835, 久米島　¥1, 890, 甲府　¥2, 940, 高梁　¥2, 520,
　高田　¥2, 730, 徳島（第2版）　¥2, 100, 日光　¥2, 940, 富山　¥2, 415,
　長野　¥3, 045, 名寄　¥2, 310, 八丈島　¥1, 365, 八戸　¥2, 310,
　福岡　¥2, 520, 福島　¥3, 675, 水戸　¥2, 730, 宮崎　¥2, 625, 村上　¥2, 730,
　夕張岳　¥2, 520, 和歌山　¥2, 625
５万分の１地質図幅　地質図1：5万, 地域地質研究報告
　赤名　¥2, 835, 姉崎　¥3, 570, 秋田　¥1, 890,
　飯山　¥5, 775, 出雲崎　¥3, 360, 市野瀬　¥2, 520, 犬飼　¥3, 570,
　伊平屋島及び伊是名島　¥1, 890, 今市　¥3, 045,
　上野　¥4, 200, 浦郷　¥3, 360,
　恵比島　¥2, 940, 大分　¥3, 990, 大阪西南部　¥2, 520,
　大阪西北部　¥2, 520, 大阪東南部　¥3, 570, 大阪東北部　¥3, 990,
　大須　¥2, 520, 小値賀島及び肥前平島　¥2, 520, 大宮　¥3, 045,
　尾鈴山　¥3, 675, 折尾　¥3, 150, 海田市　¥2, 835, 柿崎¥3, 465,
　柏崎　¥4, 410, 金山　¥3, 255, 川前及び井出　¥6, 300, 上高地　¥3, 675,
　刈和野　¥2, 520, 岸和田　¥3, 885, 木曽福島　¥4, 200, 北小松　¥4, 095,
　岐阜　¥3, 885, 京都東北部　¥3, 885, 珠州岬，能登飯田及び宝立山　¥4, 620,
　熊川　¥3, 780, 熊田　¥3, 465,
　倉橋島及び柱島　¥3, 045, 黒石　¥3, 570, 桑名　¥3, 360,
　下呂　¥2, 835, 神浦　¥2, 940, 神戸　¥3, 255, 小倉　¥3, 885,
　佐伯　¥3, 150, 佐賀関　¥2, 730, 桜井　¥4, 200, 篠山　¥3, 045,
　三条　¥4, 305, 椎葉村　¥4, 515, 志津川　¥4, 305, 清水　¥2, 835,
　白馬岳　¥3, 730, 末吉　¥3, 255, 須磨（2版）¥2, 520,
　洲本　¥2, 730, 千鹿　¥3, 045, 相馬中村　¥5, 355, 園部　¥3, 045, 高遠　¥4, 410,
　田島　¥3, 675, 龍野　¥3, 570, 立山　¥4, 935,
　玉庭　¥4, 515, 竹生島　¥2, 940, 津西部　¥4, 305 敦賀　¥3, 780,
　十勝池田　¥3, 570, 砥用　¥6, 195, 豊岡　¥2, 520, 十和田　¥3, 780,
　苗場山　¥2, 835, 長岡　¥4, 200, 中野　¥2, 625, 那古　¥1, 890, 名張　¥3, 360,
　浪江及び磐城富岡　¥3, 465, 奈良　¥3, 885, 西津　¥4, 305, 二本松　¥3, 045,
　乗鞍岳　¥3, 360, 八海山　¥2, 835, 姫島　¥2, 730, 広島　¥1, 575,
　広根　¥3, 675, 福江　¥2, 730, 福知山　¥3, 360, 富津　¥6, 615,
　北条　¥4, 200, 松江　¥3, 465,
　松之山温泉　¥3, 885, 三重町　¥3, 360, 御岳昇仙峡　¥2, 940, 三津　¥2, 625,
　美濃　¥2, 520, 宮下　¥3, 780, 宮原　¥4, 725, 槍ヶ岳
　¥3, 045, 温泉津及び江津　¥4, 410, 湯湾　¥3, 360, 横山　¥3, 885, 四ッ谷
　¥2, 625, 四日市　¥2, 835, 寄居　¥3, 150, 和歌山及び尾崎　¥2, 415

*このほかの地質図, 産総研地質調査総合センター出版物の詳細は以下のホームページhttp://www.aist.go.jp/GSJ/Map/でご覧になれます．

（金融機関・郵便局用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社 （旧株式会社三井ファイナンスサービス）	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

民間金融機関または郵便局のうちどちらか一つをご指定ください。

民間金融機関用 捨印

民間金融機関

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

郵便局

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、郵便局へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	郵便局お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか お通帳でご確認ください

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 1 8 4 7 6 0 0 0	顧客コード 0 0 0 0 0	

－預金口座振替規定－　※郵便局払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

金融機関使用欄	（不備返却事由） 1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違 2. 記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義 4. その他（　　）		
	備考		
	検印	印鑑照合	受付印

取扱日付局印

（民間金融機関・郵便局へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱　〒160-8440
東京都新宿区新宿 2-16-6　☎03-5362-2856

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

研究室のミニ工場

マルトーの ラボ・ファクトリープラン 3点セット

分析・検査用試料作製機器
〈切断・研削・研磨〉

小さな機械(なり)だが役に立つ

小型 精密 操作簡単 低価格

3機種揃えば、各種試料の精密加工が可能です。
(ガラス・水晶・シリコン・セラミックス・鉱物・金属材料などの加工)

カッティング
連続・浅切込みができる
ステップカッター
〔MC-170Y〕
- 試料へのダメージが少ない
- 最小切込み量 10μm／pass
- 最大加工能力 H25×L40mm
- 設置面積 W550×L450mm
- 本体価格 185万円～

グライデング
立軸平面研削機
プレパラップ
〔MG-300〕
- 最小切込量は、0.01mm目盛
- 加工サイズは、MAXφ50mm
- 任意研削面の逐次観察が可能
- 研削・研磨、同一治具使用により、研削・研磨工程は簡単で高精度
- 設置面積 W560×L380×H640mm
- 本体価格 98万円～

ポリッシング
精密鏡面研磨機
ドクターラップ
〔ML-180〕
- 組織検査用試料のラッピング・ポリシング
- アクセサリー豊富
- 研磨試料サイズ φ1～φ100mm
- 設置面積 W400×L400mm
- 本体価格 45万円～

☆貴重な試料を無駄なく手軽に加工したい、各種カタログあります。開放実験室でテスト加工が可能です。

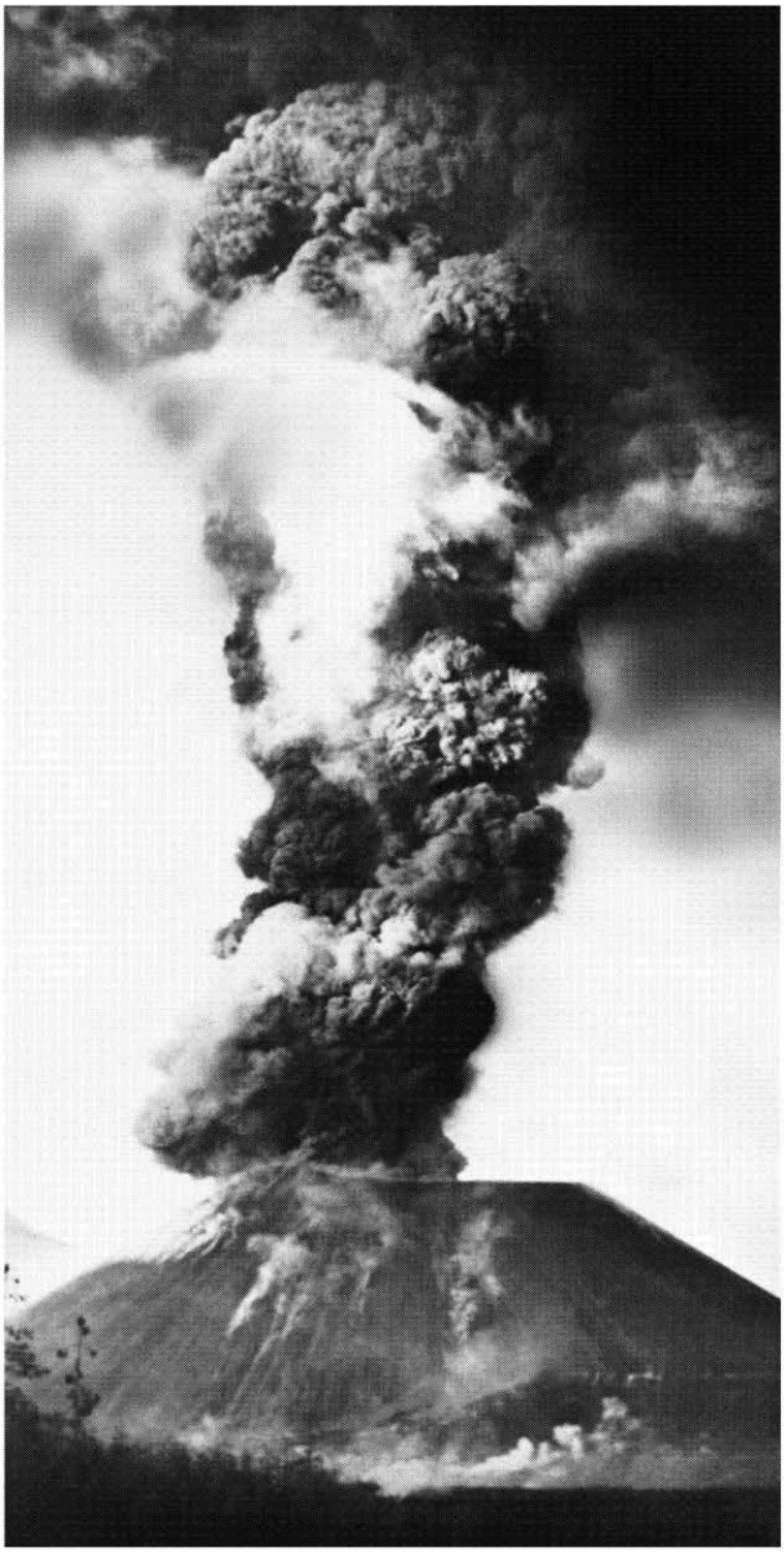
材料を 切る・削る・磨く そして 測る 技術で奉仕する

株式会社マルトー

本　社／〒113-0034 東京都文京区湯島1-1-10
☎東京(03)3251-0727(代表) FAX:東京(03)3251-2478
福岡連絡事務所／〒815-0033 福岡市南区大橋1-21-5 岩田ビル
☎福岡(092)512-2755 FAX:福岡(092)561-4288

E-mail:maruto@maruto.com http://www.maruto.com

READING THE ISOTOPIC CLOCKS



地質年代の測定

御社の調査・研究に必要とされる信頼出来るデータおよび特別なご注文については、経験と実績の豊富な当社へおまかせ下さい。

- K/Ar 年代測定
- Rb/Sr 年代測定
- ^{14}C 年代測定
- 堆積速度の査定
  (^{210}Pb, ^{137}Cs, ^{7}Be)

堆積速度の査定についての詳細は下記のURLをご参照下さい。
http://www.iadc-dredging.com/terra-et-aqua/2000/78-4.htm

- Boron11/10同位体測定

ジオスペース・サイエンス株式会社

〒170-0013
東京都豊島区東池袋1-20-2
池袋ホワイトハウスビル　620号
TEL03-5950-3661 FAX03-5950-3662
E-mail:sales@geospace.co.jp
http://www.geospace.co.jp/